

博 士 論 文 （ 要 約 ）

植民地台湾の形成

——清末・日本統治初期における国家・社会関係の転換——

新田龍希

植民地台湾の形成

——清末・日本統治初期台湾における国家・社会関係の転換——

目次

序論 台湾における国家・社会関係と植民地統治	1
第1節 近世的制度の近代的再編 1	
第2節 課題の設定 2	
(1) 台湾の植民地化過程を捉え直す	
(2) 1895年前後の歴史を接続する	
第3節 研究対象と史料 4	
第4節 本論文の構成 4	
第5節 伝統台湾漢人社会の統治構造 7	
 第1章 林維朝と団練——ある地域エリートにおける割譲経験	13
はじめに 13	
第1節 日清戦争下の団練編成 13	
(1) 日清戦争まで	
(2) 日清戦争下の団練と地域不安	
第2節 割譲から内渡まで 25	
(1) 割譲と台湾民主国	
(2) 内渡へ	
第3節 植民地権力との出会い 30	
おわりに 35	
 第2章 総理から街庄長へ——仲介者・中間団体の解体	45
はじめに 45	
第1節 嘉義における郷土防衛戦 46	
(1) 割譲から嘉義城陥落まで	
(2) 嘉義十八堡聯庄	
第2節 嘉義保良局 54	
(1) 局員	
(2) 局務	
(3) 局費	

- (4) 当局者の評価と有力者の不安

第3節 総理から事務係へ 63

- (1) 踏襲される総理制——「割譲」以後
- (2) 保良局・堡総理から事務係へ

第4節 「公事」から「公共」へ——牛墟問題 74

- (1) 牛をめぐる状況
- (2) 権力の空白期
- (3) 四区公務所の成立（1896年11月）
- (4) 嘉義支庁の新方針（1897年4月）
- (5) 「公共」の浮上

第5節 参事・街庄長の設置 87

- (1) 辨務署及び参事の設置
- (2) 街庄長の設置
- (3) 街庄長の役場費
- (4) 街庄長の任免状況
- (5) 「奇怪なる警察國」の形成と定着——1898～1909年

おわりに 114

第3章 胥吏と徴税請負機構の解体 157

はじめに 157

第1節 光緒年間の胥役と徴税 159

- (1) 衙門と胥吏
- (2) 徴税
- (3) 糧総・糧書の収入

第2節 割譲と胥役の「再出仕」 165

- (1) 漢人登用の全体的傾向
- (2) 糧総・糧書・糧差の登用

第3節 徴税請負機構の解体 169

- (1) 徴税帳簿の被害と接収
- (2) 地租規則制定と地租調定元簿の作成
- (3) 徴税の実績
- (4) 地方統治技術の継受と徴税請負機構の解体

おわりに 175

第4章 聯庄から保甲・壮丁団へ	191
はじめに	191
第1節 聯庄から壮丁団へ	192
(1) 聯庄の「復活」	
(2) 「自衛」の否定へ——壮丁団の成立	
第2節 壮丁団から保甲へ	197
(1) 保甲制度の創出——石塚英蔵案	
(2) 実現した条例	
(3) 各条例の有効性	
(4) 保甲・壮丁団の規模	
第3節 保甲の標準化と地方統治の稠密化	208
おわりに	214
補論 警吏と探聞報告の世界	225
はじめに	225
第1節 探聞報告とは	226
(1) 警察組織と警吏、巡査補	
(2) 探聞報告数	
(3) 報告内容	
第2節 都市と農村の治安	233
(1) 強姦	
(2) 暴行	
(3) 拉致	
(4) 斬殺、拷問	
(5) 村落焼夷	
(6) 徴発、略奪	
第3節 さまざまな探聞	242
(1) 台湾人の生活、習慣	
(2) 地方税に対する批判	
(3) 噂	
第4節 警吏の行動様式	252
(1) 社会の代弁者か、狡猾の徒か	
(2) 「土匪」から見た警吏	
おわりに	255

結論 郷治の終焉と植民地台湾の形成	265
第1節 統治構造の転換	265
第2節 台湾人の官治への参与——割譲前後の連続と断絶	268
第3節 台湾初期統治の捉え方	269
第4節 今後の課題	269
参考文献	275

図表一覧

図

図序 -1	伝統台湾漢人社会の統治構造	9
図 1-1	林維朝	14
図 1-2	糖廍	14
図 1-3	雲林県・嘉義県地図	15
図 1-4	林煌章と林煌策	17
図 1-5	大猫西堡団練分局の管轄範囲	20
図 1-6	洪粉員	32
図 2-1	嘉義城内（1895 年）	47
図 2-2	黄有章	48
図 2-3	林玉崑	48
図 2-4	良民婦順旗	49
図 2-5	割譲時台湾人の日本人イメージ	49
図 2-6	嘉義十八堡聯庄と中心人物、及び主な戦場	50
図 2-7	嘉義十八堡聯庄関係者	51
図 2-8	林崑岡の平安符	53
図 2-9	嘉義保良局の関係者	57
図 2-10	保良局の日常業務の一例	57
図 2-11	嘉義出張所（支庁）下各堡の局所、総理	68
図 2-12	南部台湾における牛墟の様子	76
図 2-13	考車の様子	76
図 2-14	牛図	78
図 2-15	四区公務所が発した曉諭	82
図 2-16	嘉義地方の辨務署管轄区域（1897 年）	88
図 2-17	葉瑞西とその邸宅	89
図 2-18	嘉義地域の街庄長管轄区域＝区（1898 年）	122
図 2-19	嘉義地域の街庄長管轄区域＝区（1901 年）	124
図 2-20	嘉義地域の街庄長管轄区域＝区（1905 年）	126
図 2-21	嘉義地域の街庄長管轄区域＝区（1909 年）	128
図 2-22	嘉義地域の街庄長管轄区域＝区（1920 年）	130
図 2-23	街庄長（区長）役場費及び区数	108
図 3-1	嘉義県下の糧櫃	162
図 4-1	嘉義地域の保甲及び壮丁団	220
図 4-2	壮丁団（1902 年以前）	211
図結 -1	総督府の初期地方統治構造（1904～1920 年）	269

表

表 1-1	打猫西堡各庄の戸数、人口、「総理庄耆」一覧（1896 年）	21
表 2-1	嘉義十八堡聯庄の関係した戦闘	51
表 2-2	嘉義十八堡聯庄の中心的人物	52
表 2-3	嘉義保良局の構成員	56
表 2-4	安平保安局の局務（1895 年 12 月）	59
表 2-5	保良局の支出（台北）	61
表 2-6	嘉義支庁下各堡の人口、戸数及び「事務ヲ辨ス可キ者」	66
表 2-7	嘉義支庁下の事務係一覧（1896-1897）	71
表 2-8	嘉義県下の役牛概数	79
表 2-9	嘉義県下の役牛価格	79
表 2-10	嘉義地域の辨務署参事・庁参事（1898-1920）	90
表 2-11	嘉義地域の街庄長・区長	118
表 2-12	街庄長数（街庄長管轄区域数）	93
表 2-13	区長役場費明細（1911 年度予算）	108
表 2-14	嘉義庁各区事務費	109
表 2-15	区事務費（1918 年度決算）	109
表 2-16	区職員の「国語能力」（1916 年 7 月）	111
表 3-1	道府県署の官・吏員数	160
表 3-2	道府県署の房別	160
表 3-3	糧総、櫃書の有する簿冊	163
表 3-4	安平県糧総の収入（1889 年）	165
表 3-5	安平県糧総の支出	165
表 3-6	台南における建造物の接收	166
表 3-7	台南県下の清代徴税文書残存状況（1898 年 5 月）	171
表 3-8	嘉義支庁下の清代徴税文書残存状況（1897 年 4 月）	171
表 3-9	1896 年地租徴収実績	173
表 3-10	台南県出仕胥役一覧	176
表 4-1	各県庁壮丁団・壮丁数（1899 年 7 月）	200
表 4-2	嘉義地域の壮丁団一覧（1899 年 4 月）	202
表 4-3	塩水港庁下の保甲及び壮丁団（1903 年 7 月）	207
表 4-4	朴子街保正一覧（1921 年末）	213
表補-1	台南県における台湾人警吏一覧（1895 年 11 月）	228
表補-2	台南県における警吏の雇用期間（1895～1896 年）	229
表補-3	探聞報告提出者一覧（報告先、提出数）	230
表補-4	探聞の類別報告件数（1896 年、1898 年）	232

凡例

- ・本文で使用する暦と年号について。原則として西暦で統一し、西暦にほぼ対応する年号を併記した。
- ・漢数字は旧暦、アラビア数字は西暦の月日を表す。
- ・史料の引用に当たっては、当時の漢文、日本文の混淆情況（台湾人による漢文、日本文、日本人による日本文、漢文翻訳、漢文写など）を再現するため、当用漢字や繁体字に統一することをせず、原則として原文通りの表記とした。ただしパソコンで表記不能な異体字はその限りではなく、また合字も一部開いている。なお原文中の傍点等は基本的に省略し、句読点も適宜変更した。
- ・引用文中の傍点及び波線は筆者が強調のため付したものである。
- ・漢文史料のうち、当時訳文が作成されていたものについては当時の総督府官吏が閲覧したという事実を尊重し、また「翻訳」がはらむ問題についても注意を払う目的から、訳文が残っている場合は当時の訳文を利用する。その際、誤訳や省略は適宜指摘する。また原文は注にて示す。これは本稿が対象とする時期に台湾人が書き残した文書の多くが総督府文書中に散在するにもかかわらず、従来ほとんど利用されてこなかったため、史料紹介の意図も含む。なお原文を引用する際には省略を……で示し、改行を／、擡頭を〔 〕と数字で示した（例えば〔2〕は二字擡頭を示す）ほか、閲読の便に鑑みて人名号、書名号を付した。
- ・総督府文書を引用する際は、参照の便に鑑みて簿冊番号を V、案件番号を A とし、それぞれ番号を示す。
- ・引用文において、（ ）は史料執筆者による補足、〔 〕は筆者による補足を表す。また、取り消し線は史料上削除された箇所を、〔(挿入) 〕は後から挿入された文言であることを示す。
- ・地の文においても、漢人の人名、漢語の地名は繁体字で表記している。文献名は和文は常用漢字、漢文は繁体字で統一した。

初出一覧

はじめに

第5節は「統治構造——清朝から台湾総督府へ、国家・社会関係の転換」（若林正丈・家永真幸編著『台湾研究入門』東京大学出版会、2020年）に補筆。その他は書き下ろし。

第3章

「胥吏と台湾の割譲——南部台湾における田賦徴収請負機構の解体をめぐる」（『日本台湾学会報』第21号、2019年）に補筆。

おわりに

第1節は「統治構造——清朝から台湾総督府へ、国家・社会関係の転換」（若林正丈・家永真幸編著『台湾研究入門』東京大学出版会、2020年）に補筆。その他は書き下ろし。

その他の章は書き下ろし。

本文

本論文は5年以内に出版する予定である。

参考文献

I. 未公刊史料

a) 台湾

國史館台灣文獻館（南投）

台湾總督府公文類纂

臨時台湾土地調查局公文類纂

台北県公文類纂

台中県公文類纂

台南県公文類纂

新竹県公文類纂

台東庁公文類纂

鳳山県公文類纂

嘉義県公文類纂

台南県公文類纂

土地申告書

土地業主査定簿

大租権補償金台帳

大租権補償金仕訳補助簿

民有大租名寄帳

官有地一筆限調査書

國立故宮博物院（台北）

軍機處檔摺件

國立台灣大學圖書館（台北）

淡新檔案

日治法院檔案

伊能嘉矩文庫

「巡台退思錄」劉璈撰

「台湾鹿港風俗一班」

「淡水新政記」（福島安正、1895 年）

國立台灣圖書館（台北、漢文地方志類の抄本は「地方志」項に挙げた）

「戴案紀略」吳徳功撰（抄本）

「觀光日記」吳徳功撰（抄本）

「施案紀略」吳徳功撰（抄本）

「讓台記」吳徳功撰（抄本）

「台海思慟錄」思痛子撰（抄本）

「台南各衙門官租起源沿革款類舊慣調査全冊」（余英三撰、1903 年）

「台灣慣行公私文模寫」

「台灣慣行公私文模寫附錄」

「台灣說略」王石鵬撰

「台灣地輿總圖」

「魚鱗圖冊」

「雲林沿革史」（天・参考書）

「雲林土匪事件ニ関シ軍隊ト交渉顛末・軍隊退却事情」
「旧雲林県制度考」
「旧台湾島清国兵備日誌」
「寺廟調査書 台南庁」
「台南県誌」（全 4 編、台南県庁、1898～1901 年）
「台南県々治要覧」
「台南略誌」
「台湾視察論・台湾視察日記」（笹森儀助、1896 年）
「台湾史料稿本」
「台湾大甲兵站司令部日誌」
「台湾匪魁畧歴」
「斗六土匪鎮定史」
「南部台湾誌」（第 5、7、8、9 編）
「蛮烟瘴雨日誌一斑 卷一」
「蕃人観光日誌」
「平埔蕃調査書」
「鳳山庁管内概況」
「歩兵第八聯隊第八中隊討匪録」
「歩兵第四旅団陣中日記 台湾関係之部」（壹・貳、抄本）
中央研究院台灣史研究所檔案室（台北）
吉岡喜三郎檔案

b) 日本

アジア経済研究所図書館（東京）
「台湾土地調査始末稿本」
「明治三十五年第一回議事録」（高等土地調査委員会）
「高等土地調査委員会裁決書」（第一・二回、台湾総督府財務局税務課）
宮内公文書館（東京）
内大臣府 ー 明治天皇御手許書類
国立公文書館（東京）
公文雑纂
勝田家文書
松方家文書
国立国会図書館憲政資料室（東京）
石光真清関係文書
樺山資紀関係文書
鈴木三郎関係文書
下村宏関係文書
後藤新平記念館（奥州）
後藤新平文書
東京大学史料編纂所（東京）
石塚英蔵氏関係書類
中之島図書館（大阪）
糸山衣洲遺書
防衛省防衛研究所

陸軍省大日記
 壹大日記
 日清戦役
陸軍一般史料
 戦役 — 日清戦役
 中央 — 部隊歴史師団
 中央 — 部隊歴史連隊
 支那 — 参考資料
 文庫 — 千代田史料
海軍省公文備考
 戦役等 — 日清
早稲田大学図書館
 大隈関係文書
 岡松参太郎文書

c) その他

University of Calgary (Alberta)
 James Wheeler Davidson Family Collection

II. 公刊史料

a) 和文・英文

政府出版物・文書（含外郭団体出版物）

伊藤博文編『秘書類纂 18 台湾資料』（明治百年叢書第 127 巻、原書房、1978 年）。
伊藤博文文書研究会監修、檜山幸夫総編集『伊藤博文文書』（第 31 巻～第 33 巻、ゆまに書房、2010 年）。
漆崎精一『土匪討伐戦跡概覧』（台湾軍司令部、1931 年）。
王學新譯『埔里社退城日誌暨總督府公文類纂相關史料彙編』（國史館台灣文獻館、2004 年）。
岡田東寧『台湾歴史考』（拓殖務省文書課、1897 年）。
御幡雅文『台湾散語集——警務必携』（民政局警保課、1896 年）。
嘉義庁警務課編『嘉義勦匪誌 完』（嘉義庁警務課、1906 年）。
加藤聖文編『旧植民地図書館蔵書目録 台湾篇』（全 9 巻、ゆまに書房、2004～2005 年）。
黄六鴻撰（台湾總督府民政部訳）『福惠全書 保甲部』（台湾總督府民政部、1904 年）。
参謀本部編『台湾誌』（参謀本部、1895 年）。
——『明治二十七八年日清戦史』（全 8 巻、東京印刷、1904～1907 年）。
白井新太郎『台湾清時ノ司法制度』（1901 年）。
台湾事務局編『台湾事情一班』（上・下、台湾事務局、1898 年）。
台湾憲兵隊編『台湾憲兵隊史』（台湾憲兵隊、1932 年）。
台湾守備混成第一旅団司令部編『台湾史料』（台湾守備混成第一旅団司令部、1900 年）。
台湾總督府編『台湾總督府民政事務成績提要』（台湾總督府、1897～1942 年）。
——編『台湾總督府職員録』（各年版、台湾總督府、1898～1920 年）。
——編『台湾總督府統計書』（台湾總督府、1899～1944 年）。
台湾總督府学務課編『台湾教育志稿』（1902 年）。
台湾總督府官房文書課編『台湾統治綜覧』（台湾總督府官房文書課、1908 年）。
台湾總督府警務局編『台湾總督府警察沿革誌』（全 5 巻、台湾總督府警務局、1933～1942 年）。

台灣總督府財務局編『台灣稅制ノ沿革』（台灣總督府財務局、1935 年）。
台灣總督府專賣局編『台灣樟腦專賣志』（台灣總督府專賣局、1924 年）。
——『台灣鹽專賣志』（台灣總督府專賣局、1925 年）。
——『台灣阿片志』（台灣總督府專賣局、1926 年）。
台灣總督府民政局殖產部編『台灣產業調查錄』（台灣總督府民政局殖產部、1896 年）。
台灣總督府民政局文書課編『台灣總督府諭示集』（台灣總督府民政局文書課、1895 年）。
——編『改訂增補台灣總督府例規類抄』（台灣總督府民政局文書課、1896 年）。
台灣總督府民政殖產局編『台灣ノ牧牛 附印度水牛』（台灣總督府民政殖產局、1904 年）。
台灣總督府民政部財務局編『台灣地方稅總予算書』（台灣總督府民政部財務局、1911 年）。
台灣總督府民政部財務局稅務課內稅務職員共慰會編『台灣稅務史』（上・下、台灣總督府民政部財務局稅務課內稅務職員共慰會、1918 年）。
台灣總督府民政部殖產課編『台北県下農家經濟調查書』（台灣總督府民政部殖產課、1899 年）。
台灣總督府民政部總務局地方課編『地方行政旧慣調查書』（台灣總督府民政部總務局地方課、1904 年）。
台灣總督府民政部地方課編『台灣總督府事務狀況一斑』（台灣總督府民政部地方課、1919 年）。
台灣總督府民政部文書課編『台灣總督府法規提要』（台灣總督府民政部文書課、1898 年）。
台灣總督府法務部編『台灣匪亂小史』（台灣總督府法務部、1920 年）。
台灣總督府陸軍幕僚編『台灣總督府陸軍幕僚歷史草案』（上・下、捷幼出版社、1991 年）。
中京大学社会科学研究所台灣史料研究会編『台灣史料網文』（全 3 卷、中京大学社会科学研究所、1986 年）。
水野遵「台灣行政一斑」（原敬文書研究会編『原敬關係文書第 6 卷 書類編 3』日本放送出版協會、1986 年）。
臨時台灣旧慣調查會編『台灣形勢概要』（臨時台灣旧慣調查會、1902 年〔成文出版社、1985 年〕）。
——『臨時台灣旧慣調查會第一部調查第三回報告書台灣私法』（臨時台灣旧慣調查會編、1910～1911 年）。
——『契字及書簡文類集』（盛文社、1916 年）。
——『台灣旧慣調查事業報告』（臨時台灣旧慣調查會、1917 年）。
臨時台灣旧慣調查會第二部編『臨時台灣旧慣調查會第二部調查經濟資料報告』（上・下、臨時台灣旧慣調查會第二部、1905 年）。
臨時台灣土地調查局編『清賦一斑』（臨時台灣土地調查局、1900 年）。
——『台灣旧慣制度調查一斑』（臨時台灣土地調查局、1901 年）。
——『台灣土地調查法規全書』（臨時台灣土地調查局、1902 年）。
——『臨時台灣土地調查局事業報告』（全 5 回、臨時台灣土地調查局、1902～05 年）。
——『臨時台灣土地調查事業概要』（臨時台灣土地調查局、1905 年）。
——『台灣土地慣行一斑』（全 3 編、臨時台灣土地調查局、1905 年）。
鷺巢敦哉『台灣保甲皇民化読本』（台灣警察協會、1941 年〔中島利郎・吉原丈司編『鷺巢敦哉著作集Ⅲ』綠蔭書房、2000 年〕）。
「台灣總督府職員錄系統」（中央研究院台灣史研究所檔案館、<http://who.ith.sinica.edu.tw/>）。

地方志類

嘉義街役場編『大嘉義』（嘉義街役場、1929 年）。
嘉義市玉山公學校編『嘉義鄉土概況』（嘉義市玉山公學校、1933 年）。
新竹庁総務課編『新竹庁志』（新竹庁総務課、1907 年）。
台南州共栄會編『南部台南誌』（台南州共栄會、1934 年）。
台南州新營郡編『台南州新營郡柳營庄庄勢一覽』（新營郡、1938 年）。
台北庁総務課編『台北庁志』（台北庁総務課、1903 年）。
高雄州教育會編『高雄州地誌』（高雄州教育會、1930 年）。
桃園庁編『桃園庁志』（桃園庁、1906 年）。
朴子街役場編『朴子街要覽』（朴子街役場、1935 年）。
六腳庄役場編『六腳庄要覽』（六腳庄役場、1935 年）。

蘆竹庄役場編『蘆竹庄誌』（蘆竹庄役場、1933 年）。

官報類

『阿猴庁報』1901～1920
『塩水港庁報』1901～1909
『嘉義県報』1898
『嘉義庁報』1901～1920
『花蓮港庁報』1910～1920
『宜蘭庁報』1900～1920
『基隆庁報』1901～1909
『恒春庁報』1902～1909
『彰化庁報』1904～1909
『深坑庁報』1901～1909
『新竹庁報』1901～1920
『台中県報』1896～1901
『台中庁報』1904～1920
『台東庁報』1897～1899, 1901～1920
『台南県公文』1901
『台南県報』1896, 1898～1900
『台南庁報』1901～1920
『台北県報』1896～1901
『台北庁報』1901～1920
『台湾総督府府報』1897～1942
『桃園庁報』1903～1920
『桃仔園庁報』
『斗六庁報』1904～1909
『南投庁報』1904～1920
『蕃薯藔庁報』1901～1909
『苗栗庁報』1904～1909
『苗栗・台中・彰化・南投・斗六庁報』1901～1904
『澎湖庁報』1896～1920
『鳳山庁報』1901～1909

定期刊行物

『大阪朝日新聞』
『大阪毎日新聞』
『語苑』
『国民之友』
『台法月報』
『台湾慣習記事』
『台湾教育会雑誌』
『台湾協定会報』
『台湾警察時報』
『台湾新報』
『台湾地方行政』

『台湾土地調査紀念会記事』

『台湾日日新報』

『台湾日報』

『台湾農事報』

『台湾民報』

『東京朝日新聞』

『東京經濟雜誌』

『東京日日新聞』

『土地調査局報』

『風俗画報』

North China Herald

同時代文献（含日記・回顧録・伝記等）

秋沢次郎『台湾匪誌』（杉田書店、1923年）。

石光真清『城下の人』（龍星閣、1958年〔中央公論新社、2017年〕）。

市毛浅太郎編『征台顛末』（日進堂、1897年）。

伊藤博文関係文書研究会編『伊藤博文関係文書 三』（塙書房、1975年）。

内田魯庵『社会百面相』（博文館、1902年〔岩波文庫、岩波書店、1953年〕）。

大路会編『大路水野遵先生』（大路会、1930年）。

樺山資英伝刊行会編『樺山資英伝』（樺山資英伝刊行会、1942年）。

黄葉秋造『鎮南記念帖』（鎮南山臨濟護国禪寺、1913年）。

許時嘉・朴澤好美編譯『艋舺山衣洲在台日記 1898～1904』（中央研究院台灣史研究所、2016年）。

黒龍会編『東亜先覚志士記伝』（上・中・下、黒龍会、1933～1936年）。

後藤新平『日本植民政策一斑』（拓殖新報社、1921年）。

小林勝民『台湾経営論』（堀卯三郎、1902年）。

謝國興主編策劃、松添節也翻譯・編注『駐台南日本兵1904年日記』（中央研究院台灣史研究所、2016年）。

シュマッヘル（宇都木信夫訳）『台湾戦役』（宇都木書店、1896年）。

関口隆正『台湾歴史歌』（金港堂書籍発売、1900年）。

台南新報社編『南部台湾紳士録』（台南新報社、1907年）。

台湾新民報社調査部編『台湾人士鑑』（台湾新民報社、1934年）。

台湾経世新報社編『台湾大年表』（台湾経世新報社、1938年）。

台湾文化三百年記念会編『台湾史料集成』（台湾文化三百年記念会、1931年）。

竹越与三郎『台湾統治志』（博文館、1905年）。

月出皓編『東京勸業博覧会台湾館』（東山書屋、1907年）。

棠陰会編『能久親王事蹟』（春陽堂、1908年〔森林太郎『鷗外全集第3巻』岩波書店、1972年〕）。

戸島嘉吉『地方開発街庄巡り——附街庄事務の栞』（新高堂、1915年）。

——『街庄制要義』（小出書店、1921年）。

苔米地治三郎『高野孟矩』（研学会、1897年）。

鳥居龍蔵『ある老学徒の手記』（朝日新聞社、1953年〔岩波書店、2013年〕）。

内藤虎次郎『支那論』（文会堂書店、1914年）。

——『内藤湖南全集第2巻』（筑摩書房、1971年）。

中神城南編『台南事情 附台南県職員録・台南商人録』（小出書店、1900年）。

西村才介（南溟漁人）『解剖せる台湾』（昭文堂、1912年）。

日本警察新聞台湾支局編『台湾警察年代幹部職員録』（日本警察新聞社、1931年）。

野間五造『縦横公義録』（中国民報社、1902年）。

橋口兼清編『橋口文蔵遺事録』（橋口兼清、1906年）。

橋本定幢「台湾再渡日誌」（橋本定雄『台湾浄土』教安寺、1995年）。

羽鳥敬一・本間恂一・斎藤寿一郎編『野澤武三郎手記明治二十七・八年戦役従軍紀』（野島出版、1974年）。

細川瀏『小鱗回顧録』（加土印刷所、1927年〔中文訳：謝國興・呂理政主編『乙未之役隨軍見聞録』中央研究院台灣史研究所・國立台灣歷史博物館、2015年所収〕）。

水越幸一「本島の現行地方制度成立經過覚え書（一～十）」（『台湾地方行政』第3巻第4号～第4巻第4号、1937年4月～1938年4月）。

水野遵『台湾阿片処分』（水野遵、1898年）。

水上熊吉編『前台湾高等法院長高野孟矩剛骨譚』（広文堂、1902年）。

宮本常一『忘れられた日本人』（未来社、1960年〔岩波書店、1984年〕）。

民友社編『台湾』（民友社、1895年）。

村上玉吉『台湾紀要』（警眼社、1899年）。

持地六三郎『台湾殖民政策』（富山房、1912年）。

吉井弘治編『台湾館』（前橋印刷所、1910年）。

林進発『台湾官紳年鑑』（民衆公論社、1932年）。

渡部求『台湾と乃木大将』（台湾実業界社、1940年）。

Davidson, James W., *The Island of Formosa: Past and Present* (London & N.Y.: Macmillan, 1903).

Wright, David Curtis & Hsin-yi Lin, *From Province to Republic to Colony: The James Wheeler Davidson*

Collection on the Origins and Early Development of Japanese Rule in Taiwan, 1895-1905 (Taipei:

Institute of Taiwan History, Academia Sinica & University of Calgary Press, 2017)[＝頼大衛・林欣宜編

著『禮密臣台灣資料選集』中央研究院台灣史研究所・加拿大卡加利大學出版社、2017年]。

b) 漢文

定期刊行物

『漢文台灣日日新報』

『台灣詩薈』

『申報』

地方志（及びそれに類するもの）

嘉慶刊『續修台灣縣志』

道光刊『彰化縣志』

道光刊『噶瑪蘭志略』

咸豐刊『噶瑪蘭廳志』

同治刊『重纂福建通志』

同治刊『淡水廳志』

道光「淡水廳志稿」未刊（抄本、國立台灣圖書館蔵）

光緒「苗栗縣志」未刊（同上）

光緒「恒春縣志」未刊（同上）

光緒「台灣通志稿」未刊（同上）

明治「新竹縣志」未刊（同上）

明治「樹杞林志」未刊（抄本、國立台灣大學圖書館蔵伊能嘉矩文庫）

明治「苑裡志」未刊（抄本、國立台灣圖書館蔵）

道光「台灣採訪冊」未刊（同上）

光緒「新竹縣採訪冊」未刊（同上）

光緒「雲林縣采訪冊」未刊（同上）

光緒「鳳山縣采訪冊」未刊（同上）

明治「嘉義管內打猫西堡・打猫北堡・打猫南堡・打猫東下堡下三分・打猫東頂堡采訪冊」未刊（同上）

光緒「安平縣雜記」未刊（同上）

明治「新竹縣制度考」未刊（同上）

『台灣省通志稿』（全 60 冊、台灣省文獻委員會、1950～1965 年）。

『台灣省通志』（全 146 冊、台灣省文獻委員會、1968～1973 年）。

『重修台灣省通志』（全 50 冊、台灣省文獻委員會、1989～1996 年）。

『嘉義市志』（全 15 冊、嘉義市政府、2002～2007 年）。

『嘉義縣志稿』（嘉義縣文獻委員會、1962 年）。

『嘉義縣志』（全 14 冊、嘉義縣政府、1976～1983 年）。

『嘉義縣志』（全 13 冊、嘉義縣政府、2009 年）。

『朴子市志』（嘉義縣朴子市公所、1998 年）。

『大埔鄉志』（嘉義縣大埔鄉公所、1993 年）。

『民雄鄉志』（嘉義縣民雄鄉公所、1993 年）。

『中埔鄉志』（嘉義縣中埔鄉公所、1997 年）。

『阿里山鄉志』（嘉義縣阿里山鄉公所、2001 年）。

『水上鄉志』（嘉義縣水上鄉公所、2002 年）。

『太保市志』（嘉義縣太保市公所、2009 年）。

『台南市志稿』（全 10 冊、台南市文獻委員會、1958～1959 年）。

『台南市志』（全 14 冊、台南市政府、1978～1991 年）。

『續修台南市志』（全 16 冊、台南市政府、1996～1997 年）。

『台南縣志稿』（全 13 冊、台南縣文獻委員會、1957～1960 年）。

『新營市志』（台南縣新營市公所、1997 年）。

『麻豆鎮鄉土誌』（詹評仁、1977 年）。

『善化鎮鄉土誌』（唐德塹、1982 年）。

『後壁鄉志』（台南縣後壁鄉公所、1986 年）。

『白河鎮志』（台南縣白河鎮公所、1998 年）。

『佳里鎮志』（台南縣佳里鎮公所、1998 年）。

『鹽水鎮志』（台南縣鹽水鎮公所、1998 年）。

『柳營鄉志』（台南縣柳營鄉公所、1999 年）。

『官田鄉志』（台南縣官田鄉公所、2002 年）。

『重修屏東縣志』（全 10 冊、屏東縣政府、2014 年）。

賦役冊など

道光刊『福建賦役總冊』（國立台灣圖書館藏）

道光刊『福建賦役細冊』（國立台灣圖書館藏）

光緒「淡水縣簡明總括圖冊」未刊（抄本、國立台灣圖書館藏）

光緒「鳳山縣簡明總括圖冊」未刊（同上）

光緒「台北府新竹縣簡明總括圖冊」未刊（同上）

漢籍（甲午以前）

『亭林文集』顧炎武撰

『明夷待訪錄』黃宗羲撰

『佐治藥言』汪輝祖撰

『問俗錄』陳盛韶撰
『治台必告錄』丁日健撰
『福惠全書』黃六鴻撰
『鹿洲公案』藍鼎元撰
『東槎紀略』姚瑩撰
『東溟奏稿』姚瑩撰
『斯未信齋文編』徐宗幹撰
『斯未信齋語錄』徐宗幹撰
『浮海前記』徐宗幹撰
『渡海後記』徐宗幹撰
『全台遊記』池志激撰（林慶雲輯『惜硯樓叢刊』瑞安林氏、1934年）
『台遊日記』蔣師轍撰（蔣國榜編『金陵叢書』丙集、1914～1916年）
『台陽見聞錄』唐贊袞撰（國立台灣圖書館藏）

漢籍（乙未以後）

『東方兵事紀略』姚錫光撰
『盾墨拾餘』易順鼎撰
『晴花暖玉詞』鄧嘉縝撰
『嶺雲海日樓詩鈔』丘逢甲撰
『李鶴田先生哀台灣箋釋』李鶴田撰（中央研究院傅斯年圖書館藏）
『官制議』康有為撰
『台陽詩話』王松撰（國立台灣圖書館藏）
『友竹行窩遺稿』王松撰、王石鵬編（1933年）
『師友風義錄』鄭鵬雲編（版存：上海日本絳雪齋書局、發行所：台北大稻埕第二區區長事務所・台北六館街六番
戶豐原質商行・新竹北門大街鹽總館・新竹米市街振榮商行・新竹太爺街茂泰商行、1903年、國立台灣圖書館
藏）
『台灣三字經』王石鵬撰（台灣日日新報、1904年、國立台灣圖書館藏）
『瑞桃齋詩稿』吳德功撰（手稿本、國立台灣圖書館藏）
『瑞桃齋詩話』吳德功撰（手稿本、國立台灣圖書館藏）
『瑞桃齋文稿』吳德功撰（手稿本、國立台灣圖書館藏）
『寄鶴齋詩簪』洪棄生撰（國立台灣圖書館藏）
『瀛洲詩集』林欽賜編（1933年）（國立台灣圖書館藏）
『窺園留草』許南英撰（北京附窺園、1933年）
『劉永福歷史草』劉永福述・黃海安錄・羅香林校（1936年）

在台日本人・台灣總督府刊行本

伊藤貞太郎『劍潭餘光』（1914年）。
尾崎秀真・館森鴻編『鳥松閣唱和集』（尾崎秀真・館森鴻、1906年）。
佐倉孫三『台風雜記』（國光社、1903年）。
——『達山文稿』（達山會、1937年）。
住江敬義『江瀕軒唱和詩』（1902年）。
台灣總督府編『慶饗老典錄』（台灣總督府、1900年）。
——『台灣揚文會策議』（台灣總督府、1901年）。
——『台灣列紳傳』（台灣總督府、1916年）。
中西牛郎『泰東哲學家李公小傳』（台灣日日新報、1908年）。

勅山逸也編『南菜園唱和集』(1900年)。

編纂史料

陳漢光『台灣詩錄』(台灣省文獻委員會、1971年)。

陳懷澄著、許雪姬編註『陳懷澄先生日記』(第1~4冊、中央研究院台灣史研究所、2016~2019年)。

陳素雲主編『林維朝詩文集』(國史館、2006年)。

陳怡宏編・導讀『乙未之役資料彙編(一) 乙未之役中文史料』(國立台灣歷史博物館・潘思源、2016年)。

淡新檔案校註出版編輯委員會編『淡新檔案』(全36冊、國立台灣大學圖書館、1995~2010年)。

國立故宮博物院編『宮中檔光緒朝奏摺』(全26冊、國立故宮博物院、1973~1975年)。

何培夫主編『台灣地區現存碑碣圖誌 台南市篇』(國立中央圖書館台灣分館、1992年)。

——『台灣地區現存碑碣圖誌 台南縣篇』(國立中央圖書館台灣分館、1994年)。

——『台灣地區現存碑碣圖誌 嘉義縣市篇』(國立中央圖書館台灣分館、1994年)。

——『台灣地區現存碑碣圖誌 高雄縣・高雄市篇』(國立中央圖書館台灣分館、1995年)。

——『台灣地區現存碑碣圖誌 屏東縣・台東縣篇』(國立中央圖書館台灣分館、1995年)。

洪安全總編『清宮月摺檔台灣史料』(全8冊、國立故宮博物院、1994年)。

——『清宮諭旨檔台灣史料』(全6冊、國立故宮博物院、1996年)。

——『清宮廷寄檔台灣史料』(全3冊、國立故宮博物院、1998年)。

——『清宮洋務始末台灣史料』(全4冊、國立故宮博物院、1999年)。

——『清宮宮中檔奏摺台灣史料』(全12冊、國立故宮博物院、2001年)。

——『清宮台灣巡撫史料』(上・下、國立故宮博物院、2006年)。

洪棄生「台灣戰紀」(中國史學會輯『中日戰爭』正編中、上海新知識出版社、1956年)。

洪繻著、台灣省文獻委員會編『洪棄生先生全集』(全7冊、台灣省文獻委員會、1993年)。

胡傳『台灣日記與稟啓』(台灣銀行、1960年)。

黃富三等解讀、何鳳嬌・林正慧・吳俊瑩編輯『霧峰林家文書集』(全7冊、國史館、2013~2017年)。

李宏健著編集『歷代竹枝詞選』(萬卷樓圖書、2015年)。

李明輝・黃俊傑・黎漢基合編『李春生著作集』(全5冊、南天書局、2004年)。

李南衡主編『日據下台灣新文學 明集2 小說選集一』(明潭出版社、1979年)。

林紀堂著、許雪姬編註『林紀堂先生日記』(中央研究院台灣史研究所、2017年)。

林玉茹編『尺素頻通——晚清寧波與泉州・台灣之間的貿易文書』(政大出版社、2013年)。

——・劉序楓編『鹿港郊商許志湖家與大陸的貿易文書(1895~1897)』(中央研究院台灣史研究所、2006年)。

劉墩『巡台退思錄』(海東山房、1957年)。

劉銘傳『劉壯肅公奏議』(全3冊、台灣銀行、1969年)。

『劉銘傳撫台前後檔案』(台灣銀行、1969年)。

羅大春『台灣海防並開山日記』(台灣銀行、1972年)。

羅惇齋「中日兵事本末」(『滿清野史』昌福公司、1920年)。

——「割台記」(同上)。

沈葆楨『沈文肅公牘』(台灣省文獻委員會、1998年)。

施士洁『後蘇龕合集』(台灣銀行、1965年)。

台灣史料集成編輯委員會編『台灣史料集成』(全110冊、行政院文化建設委員會・遠流出版、2004~2009年)。

——編『清代台灣關係諭旨檔案彙編』(全9冊、行政院文化建設委員會・遠流出版、2004年)。

——編『清代台灣方志彙刊』(全41冊、行政院文化建設委員會・遠流出版ほか、2004~2011年)。

——編『台灣總督府檔案抄錄契約文書』(全35冊、行政院文化建設委員會・遠流出版、2005~2007年)。

王世慶主編『台灣公私藏古文書影本』(全10輯、美國亞洲學會台灣研究小組景照本、東洋文庫藏)。

王松『滄海遺民賸稿』(台灣銀行、1957年)。

吳密察編『高雄史料集成第二種 乙未之役打狗史料 中文編』(高雄市政府文化局・國立歷史博物館・國立台灣歷史博物館、2015年)。

吳質卿『清代邊疆史料抄稿本彙編』（線裝書局、2003 年）。
俞明震「台灣八日記」（左舜生選輯『中国近百年史資料 続編』中華書局、1938 年）。
張本政主編『清實錄台灣史資料專輯』（福建人民出版社、1993 年）。
張麗俊『水竹居主人日記』（全 10 冊、中央研究院近代史研究所、2000～2004 年）。
左舜生選輯『中国近百年史資料 初編』（中華書局、1938 年）。

c) 非文字資料

地図

黃武達編著『日治時期台灣都市發展地圖集』（南天書局、2006 年）。
「台灣歷史文化地圖」（中央研究院地理資訊科學研究專題中心、<http://thcts.ascc.net>）。
台灣總督府臨時台灣土地調查局調製『台灣堡圖』（遠流出版、1996 年）。

写真

石川源一郎編『台湾名所写真帖』（台湾商報社、1899 年）。
遠藤誠編『征台軍凱旋紀念帖』（裳華房、1896 年〔本文の中文訳：謝國興・呂理政主編『乙未之役隨軍見聞録』中央研究院台灣史研究所・國立台灣歷史博物館、2015 年所収〕）。
黒田菊之助編『南部台湾写真帖』（訂正第 7 版、台湾絵葉書会、1914 年）。
台湾総督府官房文書課編『台湾写真帖』（台湾総督府官房文書課、1908 年）。
村崎長昶『台北写真帖』（新高堂書店、1913 年）。
陸地測量部撮影『日清戦争写真帖』（小川一真出版部ほか、1894～1895 年）。
『人文薈萃』（遠藤寫真館、1921 年）。
「意象・台灣影像資料庫」（國家文化藝術基金會、<http://www.insighttaiwandb.com.tw>）。

III. 研究文献

和文 (50 音順)

浅野豊美『帝国日本の植民地法制——法域統合と帝国秩序』（名古屋大学出版会、2008 年）。
東嘉生『台湾經濟史研究』（東都書籍台北支店、1944 年）。
阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院、2004 年）。
安藤彦太郎『中国語と近代日本』（岩波書店、1988 年）。
家永三郎『太平洋戦争』（岩波書店、初刊：1968 年、第二版：1986 年〔岩波現代文庫、岩波書店、2002 年〕）。
石井寛治「日清戦後経営」（朝尾直弘ほか編『岩波講座日本歴史第 16 巻 近代 3』岩波書店、1976 年）。
石田浩『台湾漢人村落の社会經濟構造』（関西大学出版部、1985 年）。
井出季和太『台湾治績志』（台湾日日新報、1937 年）。
伊東貴之「解説」（溝口雄三『中国思想のエッセンスⅡ 東往西来』岩波書店、2011 年）。
伊藤之雄『立憲国家の確立と伊藤博文——内政と外交 1889～1898』（吉川弘文館、1999 年）。
——『立憲国家と日露戦争——外交と内政 1898～1905』（木鐸社、2000 年）。
伊能嘉矩『世界に於ける台湾の位置』（林書房、1899 年）。
——『台湾志』（全 2 巻、文学社、1902 年）。
——『台湾巡撫トシテノ劉銘伝』（新高堂、1905 年）。
——『領台十年史』（新高堂、1905 年）。
——「台湾」（吉田東伍『増補大日本地名辞書続編 第 8 巻』富山房、1912 年〔初版 1909 年〕）。
——『台湾文化志』（上・中・下、刀江書院、1928 年）。
岩井茂樹「武進県『実徴堂簿』と田賦徴収機構」（夫馬進編『中国明清地方档案の研究』京都大学文学部、2000 年）。

- 「清代の版図順荘法とその周辺」(『東方学報』京都第72冊、2000年)。
- 「武進県の田土推収と城郷関係」(森時彦編『中国近代の都市と農村』京都大学人文科学研究所、2001年)。
- 『中国近世財政史の研究』(京都大学学術出版会、2004年)。
- 「帝国と互市——16～18世紀東アジアの通交」(籠谷直人・脇村孝平編『帝国とアジア・ネットワーク——長期の19世紀』世界思想社、2009年)ほか。
- 上田信「明清期・浙東における州県行政と地域エリート」(『東洋史研究』第46巻第3号、1987年12月)。
- 『伝統中国——〈盆地〉〈宗族〉にみる明清時代』(講談社、1995年)。
- 梅森直之「規律の旅程——明治初期警察制度の形成と植民地」(『早稲田政治経済学雑誌』第354号、2004年1月)。
- 「変奏する統治——20世紀初頭における台湾と韓国の刑罰・治安機構」(酒井哲哉編『岩波講座「帝国」日本の学知第1巻「帝国」編成の系譜』岩波書店、2006年)。
- 「国民国家形成と植民地国家形成」(国立歴史民族博物館編『「日韓併合」100年を問う——2010年国際シンポジウム』岩波書店、2011年)。
- 袁甲辛「三新法体制における府県「公権」の形成——府県庁舎建築修繕費の地方税移行を手がかりに」(『史学雑誌』127編7号、2018年7月)。
- 遠藤正敬『近代日本の植民地統治における国籍と戸籍——満洲・朝鮮・台湾』(明石書店、2010年)。
- 王鉄軍「近代日本政治における台湾総督制度の研究」(『中京法学』第43巻第1号、2008年)。
- 「台湾統治と総務長官」(『中京法学』第43巻第2号、2008年)。
- 「台湾総督府司法官僚の形成——領有初期における司法制度を中心として」(『中京法学』第43巻第3・4号、2009年)。
- 「日本外地官僚の形成——日露戦争中の台湾総督府官僚を中心として」(『中京法学』第44巻第1・2号、2009年)。
- 「近代日本文官官僚制度の中の台湾総督府官僚」(『中京法学』第45巻第1・2号、2010年)。
- 「外地統治と警察官吏——台湾統治における台湾総督府警察官」(『中京法学』第45巻第3・4号、2011年)。
- 「台湾総督府官僚と関東都督府の設立」(檜山幸夫編著『帝国日本の展開と台湾』創泉堂出版、2011年)。
- 大江志乃夫「植民地領有と軍部——とくに台湾植民地征服戦争の位置づけをめぐる」(『歴史学研究』第460号、1978年9月)[柳沢遊・岡部牧夫編『展望日本歴史20 帝国主義と植民地』東京堂出版、2001年収録]。
- 『日露戦争と日本軍隊』(立風書房、1987年)。
- 「植民地戦争と総督府の成立」(同ほか編『岩波講座近代日本と植民地2 帝国統治の構造』岩波書店、1992年)。
- 大友昌子「清朝時代における台湾地方経済に関する調査報告書——『旧慣調査』前史として」(台湾総督府文書目録編纂委員会編『台湾総督府文書目録第5巻』ゆまに書房、1998年)。
- 大濱徹也『乃木希典』(雄山閣出版、1967年[講談社、2010年])。
- 岡義武「日清戦争と当時における対外意識」(『国家学会雑誌』第68巻第3・4号、5・6号、1954～1955年)。
- 「国民的独立と国家理性」(唐木順三・竹内好共編『近代日本思想史講座第8巻 世界のなかの日本』筑摩書房、1961年)。
- 『岡義武著作集第6巻 国民的独立と国家理性』(岩波書店、1993年)。
- 岡本隆司『近代中国と海関』(名古屋大学出版会、1999年)。
- 『中国の誕生——東アジアの近代外交と国家形成』(名古屋大学出版会、2017年)
- 編著『宗主権の世界史——東西アジアの近代と翻訳概念』(名古屋大学出版会、2014年)。
- 岡本真希子『植民地官僚の政治史——朝鮮・台湾総督府と帝国日本』(三元社、2008年)。
- 「植民地期の政治史を描く視角について——体制の内と外、そして「帝国日本」」(『思想』第1029号、2010年1月)。
- 「植民地統治初期台湾における内地人の政治・言論活動——六三法体制をめぐる相剋」(『社会科学』第86号、2010年)。
- 「植民地在住者の政治参加をめぐる相剋——「台湾同化会」事件を中心として」(『社会科学』第89号、

- 2010 年)。
- 「台湾人巡查補をめぐる統合と排除——前期武官総督期における待遇と慰霊」(『社会科学』第 91 号、2011 年 5 月)。
- 「植民地地方行政の開始と台湾人名望家層——統治体制転換期の台南地域社会」(『社会科学』第 94 号、2012 年)。
- 「日本統治前半期台湾の官僚組織における通訳育成と雑誌『語苑』——1910～1920 年代を中心に」(『社会科学』第 42 巻第 2・3 号、2012 年 11 月)。
- 「『国語』普及政策下台湾の官僚組織における通訳育成と雑誌『語苑』——1930～1940 年代を中心に」(『社会科学』第 42 巻第 4 号、2013 年 2 月)。
- 「日清戦争期における清国語通訳官——陸軍における人材確保をめぐる政治過程」(『国際関係学研究』第 45 号、2018 年)。
- 「植民地統治初期における台湾総督府法院の人事——判官・検察官の任用状況と流動性を中心に」(『社会科学』第 48 巻第 2 号、2018 年 8 月)。
- 「植民地統治初期台湾における法院通訳の人事——制度設計・任用状況・流動性」(『社会科学』第 48 巻第 4 号、2019 年 2 月)。
- 奥田晴樹「町村制町村の歳入構造と戸数割」(近代租税史研究会編『近代日本の形成と租税』有志舎、2008 年)。
- 小野達哉「清末巴県郷村部の徴税請負と訴訟の関係——特に抬塾をめぐる」(『東洋史研究』第 74 巻第 3 号、2015 年 12 月)。
- 大日方純夫『近代日本の警察と地域社会』(筑摩書房、2000 年)。
- 『維新政府の密偵たち——御庭番と警察のあいだ』(吉川弘文館、2013 年)。
- 外務省条約局法規課編『外地法制誌』(全 7 部、外務省条約局法規課、1955～1971 年)。
- 「岳陽鷹取教授追悼録」(『立命館文学』第 1 巻第 2 号、1934 年 12 月)。
- 柏木一朗「日清戦争後に於ける台湾の治安問題——雲林虐殺事件を中心に」(『法政史学』第 48 号、1996 年)。
- 「台湾総督府と廈門事件」(安岡昭男編『近代日本の形成と展開』巖南堂書店、1998 年)。
- 「明治三〇年前後における台湾の郵便事業と治安問題」(台湾史研究部会編『日本統治下台湾の支配と展開』中京大学社会科学研究所、2004 年)。
- 「日本統治下の台湾と軍隊」(阿部猛・田村貞雄編『明治期日本の光と影』同成社、2008 年)。
- 「台湾平定後の日本軍と民衆」(檜山幸夫編著『帝国日本の展開と台湾』創泉堂出版、2011 年)。
- 梶原通好『台湾農民生活考』(緒方武蔵、1941 年)。
- 片岡巖『台湾風俗誌』(台湾日日新報社、1921 年)。
- 片山剛『清代珠江デルタ図甲制の研究』(大阪大学出版会、2018 年)。
- 加藤雄三「清代の胥吏缺取引について (1・2)」(『法学論叢』第 147 巻第 2 号・第 149 巻第 1 号、2000～2001 年)。
- 可児弘明『近代中国の苦力と「猪花」』(岩波書店、1979 年)。
- 『民衆道教の周辺』(風響社、2004 年)。
- 狩野直喜『清朝の制度と文学』(みすず書房、1984 年)。
- 川島真『中国近代外交の形成』(名古屋大学出版会、2004 年)。
- 「戦後初期日本の制度的「脱帝国化」と歴史認識問題——台湾を中心に」(永原陽子編『「植民地責任」論——脱植民地化の比較史』青木書店、2009 年)。
- 「東アジア世界の近代——19 世紀」(和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真編『東アジア近現代通史第 1 巻 東アジア世界の近代——19 世紀』岩波書店、2010 年)。
- 「小山秋作関係文書所収王徳標関係史料について」(檜山幸夫編著『帝国日本の展開と台湾』創泉堂出版、2011 年)。
- 「清朝の動揺と社会変動——19 世紀の中国」(吉田光男編著『東アジア近世近代史研究』放送大学教育振興会、2017 年)。
- 河原林直人『近代アジアと台湾——台湾茶業の歴史的展開』(世界思想社、2003 年)。

- 菊池秀明『广西移民社会と太平天国』（風響社、1998年）。
- 岸本美緒「明清時代の郷紳」（柴田三千雄ほか編『シリーズ世界史への問い第7巻 権威と権力』岩波書店、1990年）。
- 「東アジア・東南アジア伝統社会の形成」（樺山紘一ほか編『岩波講座世界歴史第13巻 東アジア・東南アジア伝統社会の形成』岩波書店、1998年）。
- 『東アジアの「近世」』（山川出版社、1998年）。
- 『明清交替と江南社会——17世紀中国の秩序問題』（東京大学出版会、1999年）。
- 「中国中間団体論の系譜」（岸本美緒編『岩波講座「帝国」日本の学知第3巻 東洋学の磁場』岩波書店、2006年）。
- 「中国史における「近世」の概念」（『歴史学研究』第821号、2006年11月）。
- 「業」（『歴史学事典第13巻 所有と生産』弘文堂、2006年）。
- 『風俗と時代観——明清史論集1』（研文出版、2012年）。
- 『地域社会論再考——明清史論集2』（研文出版、2012年）。
- 北岡伸一『後藤新平——外交とヴィジョン』（中央公論新社、1988年）。
- 北原敦ほか「フランス革命からファシズムまで——二宮・柴田・グラムシとの対話」（『クリオ』第30号、2016年）。
- 北村嘉恵『日本植民地下の台湾先住民教育史』（北海道大学出版会、2008年）。
- 「台湾総督府東京出張所に関する史的素描——植民地統治のもうひとつの拠点」（近藤正己・北村嘉恵編『内海忠司日記1940～1945——総力戦体制下の台湾と植民地官僚』京都大学学術出版会、2014年）。
- 「台湾先住民の歴史経験と植民地戦争——ロシン・ワタンにおける「待機」」（『思想』第1119号、2017年7月）。
- 杵淵義房『台湾社会事業史』（徳有会、1940年）。
- 許時嘉『明治日本の文明言説とその変容』（日本経済評論社、2014年）。
- 許世楷『日本統治下の台湾——抵抗と弾圧』（東京大学出版会、1972年）。
- 楠精一郎「明治三十年・台湾総督府高等法院長高野孟矩非職事件」（手塚豊編著『近代日本史の新研究 第3巻』北樹出版、1984年）。
- 『明治立憲制と司法官』（慶應通信、1989年）。
- 熊本県教育会編『熊本県教育史 中巻』（熊本県教育会、1931年）。
- 栗原純「清代中部台湾の一考察——彰化地方における一田両主制をめぐる諸問題」（『東洋学報』第64巻第3・4号、1983年3月）。
- 「清代台湾における米穀移出と郊商人」（『台湾近現代史研究』第5号、1984年）。
- 「明治憲法体制と植民地——台湾領有と六三法をめぐる諸問題」（『東京女子大学比較文化研究所紀要』第54巻、1993年）。
- 「台湾総督府による官営移民事業について」（神奈川大学中国語学科編『中国民衆史への視座——神奈川大学中国語学科創設十周年記念論集』東方書店、1998年）。
- 「植民地台湾における初等教育政策」（『史論』第51巻、1998年）。
- 「台湾と日本の植民地支配」（樺山紘一ほか編『岩波講座世界歴史20 アジアの〈近代〉』岩波書店、1999年）。
- 「矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』と戦後台湾植民地史研究」（小島晋治・大里浩秋・並木頼寿編『20世紀の中国研究——その遺産をどう生かすか』研文出版、2001年）。
- 「『台湾総督府公文類纂』にみる台湾籍民と旅券問題」（『東京女子大学比較文化研究所紀要』第63号、2002年）。
- 「台湾総督府文書と外交関係史料論——明治期の旅券と「仮冒」籍民問題を中心に」（檜山幸夫編『台湾総督府文書の史料学的研究——日本近代公文書学研究序説』ゆまに書房、2003年）。
- 「『台湾総督府公文類纂』にみる「台湾阿片令」の制定過程について」（『東京女子大学比較文化研究所紀要』第64号、2003年）。

- 「日本植民地時代台湾における戸籍制度の成立——戸口規則の戸籍制度への転用について」（台湾史研究部 会編『日本統治下台湾の支配と展開』中京大学社会科学研究所、2004 年）。
- 「台湾における日本植民地統治初期の衛生行政について——『台湾総督府公文類纂』にみる台湾公医制度を中心として」（『史論』第 57 卷、2004 年）。
- 「『台湾総督府公文類纂』にみる戸口規則、「戸籍」、国勢調査——明治 38 年の臨時台湾戸口調査を中心として」（『東京女子大学比較文化研究所紀要』第 65 卷、2004 年）。
- 「日本統治下台湾における同化政策——共婚法の成立過程について」（國史館台灣文獻館整理組編『第四屆台灣總督府檔案學術研討會論文集』國史館台灣文獻館、2006 年）。
- 「日本による台湾植民地統治とマラリア——「台湾総督府公文類纂」を中心として」（『社会科学研究』第 27 卷第 2 号、2007 年）。
- 「日本統治下台湾における旧慣尊重と同化政策——戸口調査簿における女性の姓と改姓名」（『史論』第 61 卷、2008 年）。
- 「日本統治初期における台湾総督府の地方行政——台湾南部、鳳山地方を中心として」（國史館台灣文獻館 編『第五屆台灣總督府檔案學術研討會論文集』國史館台灣文獻館、2008 年）。
- 「日露戦争と台湾」（東アジア近代史学会編『日露戦争と東アジア世界』ゆまに書房、2008 年）。
- 「統治初期における台湾総督府の旧慣調査と土地政策——南部地方を中心として」（國立中央圖書館台灣分館編『台灣學研究國際學術研討會——殖民與近代化論文集』國立中央圖書館台灣分館、2009 年）。
- 「台湾総督府の阿片専売政策——明治三四年の扶鸞「降筆会」運動の意味するもの」（國史館台灣文獻館編『第六屆台灣總督府檔案學術研討會論文集』國史館台灣文獻館、2011 年）。
- 「上海における「国際阿片調査委員会」と日本のアヘン政策——台湾総督府のアヘン専売制度を中心として」（『近代日本研究』第 28 号、2011 年）。
- 「台南と台湾総督府の塩業政策について——塩専売制度の廃止と施行」（成功大學歴史系編『海洋古都——府城文明之形塑學術論文集』稻鄉出版社、2012 年）。
- 「一九世紀末、日本統治期の台湾」（明治維新史学会編『講座明治維新第 5 卷 立憲制と帝国への道』有志舎、2012 年）。
- 「大正期における台湾総督府専売局の阿片政策」（『史論』第 66 卷、2013 年）。
- 「台湾総督府の衛生政策と地域社会」（松田利彦編『植民地帝国日本における支配と地域社会』国際日本文化研究センター、2013 年）。
- 「帝国日本の阿片政策と台湾——極東調査委員の派遣と台湾総督府」（『史論』第 67 卷、2014 年）。
- 「台湾総督府阿片政策の「踏襲」と「転換」について——阿片令の改正と新特許問題」（『史論』第 69 卷、2016 年）。
- 「史料翻刻 密航婦事件の取り調べ史料」（『史論』第 69 卷、2016 年）。
- 黒田明伸『中華帝国の構造と世界経済』（名古屋大学出版会、1994 年）。
- 呉聰敏「大租権土地制度の分析」（老川慶喜・須永徳武・谷ヶ城秀吉・立教大学経済部編『植民地台湾の経済と社会』日本経済評論社、2011 年）。
- 呉文星「東京帝国大学の台湾に於ける学術調査と台湾総督府の植民地政策について」（『東京大学史紀要』第 17 号、1999 年）。
- 「荒尾精と台湾」（衛藤藩吉編『共生から敵対へ——第 4 回日中関係史国際シンポジウム論文集』東方書店、2000 年）。
- 「地域有力者・リーダー層の役割——日本統治下台湾における社会的リーダー階層と義務教育の実施」（松田利彦編『植民地帝国日本における支配と地域社会』国際日本文化研究センター、2013 年）。
- 「台湾人アイデンティティと台湾人指導者階層——日本統治下における台湾人社会的リーダー階層の研究について」（檜山幸夫編『歴史のなかの日本と台湾——東アジアの国際政治と台湾史研究』中京大学社会科学研究所、2014 年）。
- 「植民地統治におけるグレーゾーン——日本統治初期における台湾の社会的リーダー階層の隠退を例として」（『史潮』第 78 号、2015 年）。

- 呉密察「台湾史の成立とその課題」(溝口雄三・浜下武志・平石直昭・宮嶋博史編『アジアから考える3 周縁からの歴史』東京大学出版会、1994年)。
- 「台湾の植民地型近代化への再認識」(比較史と比較歴史教育研究会編『黒船と日清戦争——歴史認識をめぐる対話』未来社、1996年)。
- 「台湾」(松丸道雄・池田温・斯波義信・神田信夫・濱下武志編著『世界歴史大系 中国史5』(山川出版社、2002年)。
- 伍躍『明清時代の徭役制度と地方行政』(大阪経済法科大学出版部、2000年)。
- 『中国の捐納制度と社会』(京都大学学術出版会、2011年)。
- 江丙坤『台湾地租改正の研究——日本領有初期土地調査事業の本質』(東京大学出版会、1974年)。
- 洪郁如「求められる新女性像——日本統治初期における台湾の社会変容をめぐって」(『中国女性史研究』第7号、1997年)。
- 『近代台湾女性史——日本の植民統治と「新女性」の誕生』(勁草書房、2001年)。
- 「植民地の法と慣習——台湾社会の女兒取引をめぐる諸問題」(浅野豊美・松田利彦編『植民地帝国日本の法的構造』信山社、2004年)。
- 「漢族社会における〈関係〉生成の論理——ある台湾家庭の〈礼簿〉の分析」(『接統』第7号、2007年)。
- 高銘鈴「十九世紀前・中期における台湾米穀の流通に関する一考察」(『東洋学報』第85巻第2号、2003年9月)。
- 黄紹恒「不平等条約下の台湾領有——樟腦をめぐる国際関係」(『社会経済史学』第67巻第4号、2001年)。
- 「一九三〇年代までの日本統治時代における新竹客家地区の地主資本累積に関する研究」(檜山幸夫編著『帝国日本の展開と台湾』創泉堂出版、2011年)。
- 黄昭堂『台湾民主国の研究——台湾独立運動史の一断章』(東京大学出版会、1970年)。
- 黄東蘭『清末中国の地方自治と明治日本』(汲古書院、2005年)。
- 黄美惠『政権移行期における台湾地域社会及び地方統治体制——1895年台湾領有から、1897年辨務署・街庄制の成立まで』(神戸大学大学院文化学研究科博士論文、2008年)。
- 小林道彦「1897年における高野台湾高等法院長非職事件について——明治国家と植民地領有」(『中央大学大学院論究』第14号、1982年3月)。
- 「後藤新平と植民地経営——日本植民政策の形成と国内政治」(『史林』第68巻5号、1985年9月)。
- 『日本の大陸政策——1895～1914 桂太郎と後藤新平』(南窓社、1996年)[増訂改裝版として同『大正政変——国家経営構想の分裂』千倉書房、2015年]。
- 『児玉源太郎——そこから旅順港は見えるか』(ミネルヴァ書房、2012年)。
- 「児玉源太郎と原敬」(伊藤之雄編著『原敬と政党政治の確立』千倉書房、2014年)。
- 駒込武『植民地帝国日本の文化統合』(岩波書店、1996年)。
- 『世界史のなかの台湾植民地支配——台南長老教中学からの視座』(岩波書店、2015年)。
- 近藤和彦『近世ヨーロッパ』(山川出版社、2018年)。
- 「主権なる概念の歴史性について」(『歴史学研究』第989号、2019年10月)。
- 近藤正己「徴兵令はなぜ海を越えなかったか?——台湾における植民地兵養成問題」(浅野豊美・松田利彦編『植民地帝国日本の法的構造』信山社、2004年)。
- 「台湾における植民地軍隊と植民地戦争」(坂本悠一編『地域のなかの軍隊7 帝国支配の最前線——植民地』吉川弘文館、2015年)。
- 齋藤希史『漢文脈の近代——清末＝明治の文学圏』(名古屋大学出版会、2005年)。
- 『漢文脈と近代日本』(角川学芸出版、2014年[初版：日本放送出版協会、2007年])。
- 「〈同文〉のポリティクス」(『文学』2009年)。
- 佐伯富「清代の郷約・地保について——清代地方行政の一齣」(『東方学』第28号、1964年)。
- 酒井哲哉「後藤新平論の現在——帝国秩序と国際秩序」(『環』第8号、2002年)。
- 『近代日本の国際秩序論』(岩波書店、2007年)。
- 酒田正敏『近代日本における対外硬運動の研究』(東京大学出版会、1978年)。

佐々博雄「日清戦争と通訳官」(東アジア近代史学会編『日清戦争と東アジア世界の変容 下巻』ゆまに書房、1997年)。

佐々木隆『伊藤博文の情報戦略——藩閥政治家たちの攻防』(中央公論新社、1999年)。

佐々木正哉「中国における共和思想の展開と台湾民主国独立運動始末(上)」(『近代中国』第18巻、1986年6月)。

佐藤正広「台湾統治初期の地方行政——「臨時台湾戸口調査」はいかなる状況の下で実施されたか」(『経済志林』第73巻第4号、2006年3月)。

——『帝国日本と統計調査——統治初期台湾の専門家集団』(岩波書店、2012年)。

佐藤仁史『近代中国の郷土意識——清末民初江南の在地指導層と地域社会』(研文出版、2013年)。

滋賀秀三「淡新檔案の初歩的知識——訴訟案件に現れる文書の類型」(島田正郎博士頌寿記念論集刊行委員会編『東洋法史の探求——島田正郎博士頌寿記念論文集』汲古書院、1987年)。

——『清代中国の法と裁判』(創文社、1984年)。

斯波義信『華僑』(岩波書店、1995年)。

——『中国都市史』(東京大学出版会、2002年)。

——「清代台南府城の「会」、「境」と「郊」——旧中国都市における民間の公共組織」(『アジア文化研究別冊』第11号、2002年)。

謝政徳「植民地台湾における地方費区制度導入の経緯と目的——1902年台湾地方税規則の改正過程を手がかりにして」(『阪大法学』第63巻第3・4号、2013年11月)。

菅野正『清末日中関係史の研究』(汲古書院、2002年)。

杉山清彦『大清帝国の形成と八旗制』(名古屋大学出版会、2015年)。

鈴木満男『「漢蕃」合成家族の形成と展開——近代初期における台湾辺疆の政治人類学的研究』(東京大学博士論文、1988年)。

関誠『日清開戦前夜における日本のインテリジェンス——明治前期の軍事情報活動と外交政策』(ミネルヴァ書房、2016年)。

園田茂人「中国的<関係主義>に関する基礎的考察」(『ソシオロギス』第12号、1988年)。

戴國輝『中国甘蔗糖業の展開』(アジア経済研究所、1967年)。

——「清末台湾の一考察——日本による台湾統治の史的理解と関連して」(仁井田陞博士追悼論文集編集委員会編『日本法とアジア』勁草書房、1970年)。

——『日本人とアジア』(新人物往来社、1973年)。

——『台湾と台湾人——アイデンティティを求めて』(研文出版、1979年)。

——著、春山明哲・松永正義・胎中千鶴・丸川哲史編『戴國輝著作選Ⅱ——台湾史の探索』(みやび出版、2011年)。

台北帝国大学土俗・人種学研究室調査『台湾高砂族系統所属の研究第2冊資料篇』(刀江書院、1935年)。

台湾総督府文書目録編纂委員会編『台湾総督府文書目録』(第1~30巻、ゆまに書房、1993~2016年)。

高島航「實徴冊と徴税」(『東方学報』第73号、2001年)。

田中比呂志『近代中国の政治統合と地域社会——立憲・地方自治・地域エリート』(研文出版、2010年)。

ダニエルス、クリスチャン「清末台湾南部製糖業と商人資本、1870~1895年」(『東洋学報』第64巻第3・4号、1983年)。

——「清代台湾南部における製糖業の構造——とくに1860年以前を中心として」(『台湾近現代史研究』第5号、1984年)。

——「中国砂糖の国際的位置——清末における在来砂糖市場について」(『社会経済史学』第50巻第4号、1985年)。

田原史起『草の根の中国——村落ガバナンスと資源循環』(東京大学出版会、2019年)。

陳培豊『「同化」の同床異夢——日本統治下台湾の国語教育史再考』(三元社、2001年)。

——『日本統治と植民地漢文——台湾における漢文の境界と想像』(三元社、2012年)。

鶴見祐輔編著『後藤新平』(全4巻、後藤新平伯伝記編纂会、1937~1938年)。

——著、一海知義校訂『〈決定版〉正伝・後藤新平』（全8巻＋別巻、藤原書店、2005年）。

翟新『東亜同文会と中国——近代日本における対外理念とその実践』（慶應義塾大学出版会、2001年）。

寺田浩明『中国法制史』（東京大学出版会、2018年）。

涂照彦『日本帝国主義下の台湾』（東京大学出版会、1975年）。

戸邊秀明「ポストコロニアリズムと帝国史研究」（日本植民地研究会編『日本植民地研究の現状と課題』アテネ社、2008年）。

富田哲『植民地統治下での通訳・翻訳——世紀転換期台湾と東アジア』（致良出版社、2013年）。

豊岡康史『海賊からみた清朝——十八～十九世紀の南シナ海』（藤原書店、2016年）。

中川未来「植民地統治初期の台湾と新聞——『台湾新報』と『台湾日報』について」（『メディア史研究』第31号、2012年）。

——「内藤湖南の台湾統治論——明治中期の国粋主義思想と植民地」（『日本思想史学』第44号、2012年）。

——『明治日本の国粋主義思想とアジア』（吉川弘文館、2016年）。

波形昭一『日本植民地金融政策史の研究』（早稲田大学出版部、1985年）。

並木頼寿『捻軍と華北社会——近代中国における民衆反乱』（研文出版、2010年）。

——『近現代の日中関係を問う——並木頼寿著作選Ⅱ』（研文出版、2012年）。

新村容子「清末四川省における局士の歴史的 성격」（『東洋学報』第64巻第3・4号、1983年3月）。

西英昭『『台湾私法』の成立過程』（九州大学出版会、2009年）。

西川喜久子『珠江デルタの地域社会——清代を中心として』（西川喜久子、2010年）。

西川正夫『四川の郷村社会——辛亥革命前後』（西川正夫、2008年）。

西村元照「清初の包攬——私徴体制の確立、解禁から請負徴税制へ」（『東洋史研究』第35巻第3号、1976年12月）。

新田龍希「胥吏と台湾の割譲——南部台湾における田賦徴収請負機構の解体をめぐる」（『日本台湾学会報』第21号、2019年）。

——「統治構造——清朝から台湾総督府へ、国家・社会関係の転換」（若林正丈・家永真幸編著『台湾研究入門』東京大学出版会、2020年）。

二宮宏之「フランス絶対王政の統治構造」（吉岡昭彦・成瀬治編『近代国家形成の諸問題』木鐸社、1979年）。

——『フランスアンシャン・レジーム論——社会的結合・権力秩序・叛乱』岩波書店、2007年）。

野口真広「台湾総督府内務部長古荘嘉門について」（『社会学論集』第4号、2004年）。

——「台湾総督府の雲林事件への対応と保甲制——領台初期の台湾人の抵抗と協力」（『社会学論集』第9号、2007年）。

——『台湾総督府の統治政策と台湾人——包摂・適応・自主の観点からの再考』（早稲田大学出版部、2012年）。

——「一九一〇年代台湾社会支配像の再検討——地方有力者と庶民の伝統的関係の変化を事例として」（松田利彦・陳延媛編『地域社会から見る帝国日本と植民地——朝鮮・台湾・満洲』思文閣出版、2013年）。

——『植民地台湾の自治——自律的空間への意思』（早稲田大学出版部、2017年）。

羽根次郎『ルジャンドルと台湾——1874年日本軍台湾出兵事件への道程』（一橋大学大学院言語社会研究科博士論文、2010年）。

濱下武志『中国近代経済史研究——清末海関財政と開港場市場圏』（東京大学東洋文化研究所、1989年）。

林正子「伝記にえがかれた後藤新平像」（上・下、『史苑』第37巻第1号・第38巻第1・2号、1976～1977年）。

——「連横『台湾通史』巻33「林占梅列伝」——道咸同期北部台湾の一豪紳」（『東洋文化研究所紀要』第91冊、1982年）。

——「西仔反と全台団練章程——清末台湾資料の再検討」（『台湾近現代史研究』第5号、1984年）。

——「台南の劉永福——「奉旨剿滅倭寇」の黒旗」（『史苑』第52巻第2号、1992年3月）。

——「民衆が見た植民地征服戦争・台湾——『風俗画報』と『点石斎画報』を中心に」（『史苑』第63巻第2号、2003年3月）。

——「『点石斎画報』にみる台湾戦役——劉永福伝奇を中心に」（『饕餮』第12号、2004年9月）。

春山明哲「近代日本の植民地統治と原敬」（同・若林正丈編『日本植民地主義の政治的展開 1895～1934』アジ

- ア政経学会、1980 年)。
- 「植民地における「旧慣」と法」(『季刊三千里』第 41 号、1985 年)。
- 「台湾旧慣調査と立法構想」(『台湾近現代史研究』第 6 号、1988 年)。
- 「明治憲法体制と台湾統治」(大江志乃夫ほか編『岩波講座近代日本と植民地第 4 巻 統合と支配の論理』岩波書店、1993 年)。
- 『近代日本と台湾——霧社事件・植民地統治政策の研究』(藤原書店、2008 年)。
- 「台湾旧慣調査の歴史的意義」(西川潤・蕭新煌編『東アジア新時代の日本と台湾』明石書店、2010 年)。
- 「黄欣：台南の「田園主人」——植民地近代を生きたある台湾人の肖像」(松田利彦・陳延湊編『地域社会から見る帝国日本と植民地——朝鮮・台湾・満洲』思文閣出版、2013 年)。
- 「法学者・岡松参太郎の台湾経験と知の射程——植民地統治と「法の継受」をめぐる」(松田利彦編『植民地帝国日本における知と権力』思文閣出版、2019 年)。
- 東山京子「台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究——近代公文書学の構築に向けて」(学習院大学大学院人文科学研究科博士論文、2011 年)。
- 檜山幸夫「台湾初期統治の歴史的問題について——台北保良局設置条件の分析とその日本植民地統治上における意義」(『史叢』第 19 号、1976 年 3 月)。
- 「台湾統治の機構改革と官紀振粛問題——明治三〇年の台湾統治」(台湾総督府文書目録編纂委員会編『台湾総督府文書目録第 2 巻』ゆまに書房、1995 年)。
- 「台湾総督府の刷新と統治政策の転換——明治三一年の台湾統治」(台湾総督府文書目録編纂委員会編『台湾総督府文書目録第 3 巻』ゆまに書房、1996 年)。
- 『日清戦争——秘蔵写真が明かす真実』(講談社、1997 年)。
- 「台湾総督府の律令制定権と外地統治論」(中京大学社会科学研究所・中華民国台湾省文献委員会監修『台湾総督府文書目録第 4 巻』ゆまに書房、1998 年)。
- 「台湾における監獄制度の確立」(台湾総督府文書目録編纂委員会編『台湾総督府文書目録』第 5 巻、ゆまに書房、1998 年)。
- 「日本の台湾植民地支配と外地統治論——台湾総督の緊急律令制定を例に」(大濱徹也編『国民国家の構図』雄山閣、1999 年)。
- 「台湾統治の構造と台湾総督府文書」(同編『台湾総督府文書の史料学的研究——日本近代公文書学研究序説』ゆまに書房、2003 年)。
- 「台湾総督の職務権限と台湾総督府機構」(同編『台湾総督府文書の史料学的研究——日本近代公文書学研究序説』ゆまに書房、2003 年)。
- 「台湾統治基本法と六三法体制の形成——台湾事務局から拓殖務省へ」(台湾史研究部会『日本統治下の台湾の支配と展開』中京大学社会科学研究所、2004 年)。
- 「台湾統治と法——台湾統治基本法と外地統治機構の形成」(台湾史研究部会『日本統治下の台湾の支配と展開』中京大学社会科学研究所、2004 年)。
- 「建功神社の祭神と台湾総督府——文書管理と人事管理のアーカイブズ的問題」(『近代中国研究彙報』第 40 号、2018 年)。
- 「日台戦争論——台湾接收時における台湾での戦争の呼称問題を中心に」(同編著『帝国日本の展開と台湾』創泉堂出版、2011 年)。
- 平井廣一『日本植民地財政史研究』(ミネルヴァ書房、1997 年)。
- 藤井康子『わが町にも学校を——植民地台湾の学校誘致運動と地域社会』(九州大学出版会、2018 年)。
- 藤田武夫『日本地方財政制度の成立』(岩波書店、1941 年)。
- 藤谷浩悦『湖南省近代政治史研究』(汲古書院、2013 年)。
- 『戊戌政変の衝撃と日本——日中聯盟論の模索と展開』(研文出版、2015 年)。
- 夫馬進『中国善会善堂史研究』(同朋舎出版、1997 年)。
- 編『中国訴訟社会史の研究』(京都大学学術出版会、2011 年)。
- フリードマン、M (田村克己・瀬川昌久・末成道男訳)『中国の宗族と社会』(弘文堂、1987 年)。

——（末成道男・西澤治彦・小熊誠訳）『東南中国の宗族組織』（弘文堂、1991年）。

古谷大輔・近藤和彦編『礫岩のようなヨーロッパ』（山川出版社、2016年）。

細井昌浩「清初の胥吏——社会史的一考察」（『社会経済史学』第14巻第6号、1944年）。

松浦章『近代日本中国台湾航路の研究』（清文堂出版、2005年）。

——編著『日本台湾統治時代のジャンク型船舶資料——中国式帆船のアーカイヴズ』（関西大学出版部、2015年）。

松沢裕作『明治地方自治体制の起源——近世社会の危機と制度変容』（東京大学出版会、2009年）。

——「地方三新法と区町村会法」（明治維新史学会編『講座明治維新第7巻 明治維新と地域社会』有志舎、2013年）。

——『町村合併から生まれた日本近代——明治の経験』（講談社、2013年）。

松田吉郎「開山撫番」と一田両主制」（『台湾史研究』第8号、1990年）。

——「堡務署について」（『東洋史訪』第9号、2003年）。

——「日本統治初期台湾の保良局について」（『東洋史訪』第8号、2002年）。

三木聡『明清福建農村社会の研究』（北海道大学図書刊行会、2002年）。

三谷博・山口輝臣『19世紀日本の歴史——明治維新を考える』（放送大学教育振興会、2000年）。

宮崎市定「清代の胥吏と幕友——特に雍正朝を中心として」（『東洋史研究』第16巻第4号、1958年）。

——『科举史』（補訂復刻版、平凡社、1987年）。

——『宮崎市定全集第14巻 雍正帝』（岩波書店、1991年）。

——『宮崎市定全集別巻 政治論集』（岩波書店、1993年）。

溝口雄三『中国の公と私』（研文出版、1995年）。

——「辛亥革命の歴史的個性」（『思想』第989号、2006年9月）。

——『中国思想のエッセンスⅡ 東往西来』（岩波書店、2011年）。

——・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』（東京大学出版会、2001年）。

向山寛夫『日本統治下における台湾民族運動史』（中央経済研究所、1987年）。

村上衛『海の近代中国——福建人の活動とイギリス・清朝』（名古屋大学出版会、2013年）。

茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』（山川出版社、1997年）。

本野英一『伝統中国商業秩序の崩壊——不平等条約体制と「英語を話す中国人」』（名古屋大学出版会、2004年）。

森正夫『森正夫明清史論集第1巻 税糧制度・土地所有』（汲古書院、2006年）。

——『森正夫明清史論集第2巻 民衆反乱・学术交流』（汲古書院、2006年）。

——『森正夫明清史論集第3巻 地域社会・研究方法』（汲古書院、2006年）。

森理恵「台湾植民地戦争における憲兵の生活環境——明治28～36年（1895～1903）高柳彌平『陣中日誌』より」（『京都府立大学学術報告 人間環境学・農学』第56号、2004年12月）。

森田明『清代水利史研究』（亜紀書房、1974年）。

谷ヶ城秀吉『帝国日本の流通ネットワーク——流通機構の変容と市場の形成』（日本経済評論社、2012年）。

矢内原忠雄『帝国主義下の台湾』（岩波書店、1929年）。

山内文登「文明・文化言説と国民帝国・中華帝国・日本帝国——台湾・朝鮮の植民政策研究の理論的前進のために（1・2）」（『東洋文化研究所紀要』第171・173冊、2017～2018年）。

山崎丹照『外地統治機構の研究』（高山書院、1943年）。

やまだあつし「台湾茶業における台湾人資本の発展——1910年代を中心に」（『社会経済史学』第61巻第6号、1996年）。

——「植民地期台湾における地方行政と土地調査事業——朝鮮との比較を兼ねて」（堀和生・中村哲『日本植民地主義と朝鮮・台湾』京都大学学術出版会、2004年）。

山田賢『移住民の秩序——清代四川地域社会史研究』（名古屋大学出版会、1995年）。

山田豪一「台湾阿片専売制の展開過程——飛鷹降筆会の廢煙運動、その起源、儀式、波及、異変」（『社会科学討究』第44巻第1号、1998年9月）。

山根幸夫『論集近代中国と日本』（山川出版社、1976年）。

山室信一『アジアびとの風姿——環地方学の試み』（人文書院、2017年）。

山本英史『『自封投櫃』考』（『中国——社会と文化』第4号、1990年）。

——『清代中国の地域支配』（慶応義塾大学出版会、2007年）。

——『赴任する知県——清代の地方行政官とその人間環境』（研文出版、2016年）。

山本真『近現代中国における社会と国家——福建省での革命、行政の制度化、戦時動員』（創土社、2016年）。

山本進『清代財政史研究』（汲古書院、2002年）。

——『清代社会経済史』（創成社、2002年）。

楊承淑編『日本統治期台湾における訳者及び「翻訳」活動——植民地統治と言語文化の錯綜関係』（国立台湾大学出版中心、2015年）。

吉崎志保子「鷹取田一郎と閑谷三奇士——閑谷賛初年度の入学生」（『閑谷学校研究』第2号、1998年）。

吉澤誠一郎『天津の近代——清末都市における政治文化と社会統合』（名古屋大学出版会、2002年）。

リード、ブラッドリー「清朝後期四川における収税、催税、租税、代納——巴県檔案に見る衙役の活動」（『中国——社会と文化』第13号、1998年）。

李献璋『媽祖信仰の研究』（泰山文物社、1979年）。

李承機「台湾近代メディア史研究序説」（東京大学大学院総合文化研究科博士論文、2004年）。

劉枝萬『台湾の道教と民間信仰』（風響社、1994年）。

——『台湾の法教——閩山教科儀本と符式簿の解説』（風響社、2019年）。

劉明修『台湾統治と阿片問題』（山川出版社、1983年）。

林欣宜「政治権力交代時における植民地教育と社会的エリートの流動——台湾新竹を例に」（国際日本文化研究センター『植民地帝国日本における支配と地域社会』国際日本文化研究センター、2013年）。

林淑美『清代台湾移住民社会の研究』（汲古書院、2017年）。

六角恒廣『中国語教育史の研究』（東方書店、1988年）。

——『漢語師家伝——中国語教育の先人たち』（東方書店、1999年）。

——『中国語教育史拾遺』（不二出版、2002年）。

若林正丈「総督政治と台湾土着地主資産階級——公立台中中学校設立問題 1912～1915年」（『アジア研究』29巻4号、1983年1月）。

——『台湾抗日運動史研究』（研文出版、1983年〔増補版：2001年〕）。

——「葉榮鐘における「述史」の志——晩年期文筆活動試論」（『中国21』第36号、2012年3月）。

——「諸帝国の周縁を生き抜く——台湾史における辺境ダイナミズムと地域主体性」（川喜田敦子・西芳実編著『歴史としてのリジリエンス——戦争・独立・災害』京都大学学術出版会、2016年）。

——「「台湾島史」論から「諸帝国の断片」論へ——市民的ナショナリズムの台湾史観一瞥」（『思想』第1119号、2017年7月）。

和田清編『支那地方自治発達史』（中華民国法制研究会、1939年）。

渡邊直子「「地方税」の創出——三新法体制下の土木費負担」（高村直助編『道と川の近代』山川出版社、1996年）。

中文（拼音順）

阿明「牛墟」（『豐年月刊』第8巻第12期、1958年6月）。

柏樺『父母官——明清州縣官群像』（新華出版社、2015年）。

蔡承豪「麻豆地區的家族與士紳階級的建立（1624～1895）」（林玉茹主編『麻豆港街的歷史・族群與家族』台南縣政府、2009年）。

蔡慧玉「日治時代台灣的保甲戶籍行政」（『台灣風物』第44巻第3期、1994年9月）。

——「日治時代台灣保甲書記初探，1911～1945」（『台灣史研究』第1巻第2期、1994年12月）。

——「保甲制度撤廢論爭——從「寓自治於撤廢」到「寓撤廢於自治」（國立台灣師範大學歷史研究所・歷史學系編『甲午戰爭一百週年紀念學術研討會論文集』國立台灣師範大學歷史研究所・歷史學系、1995年）。

蔡蔚群『教案——清季台灣的傳教與外交』（博揚文化、2000年）。

蔡淵黎「清代台灣的社會領導階層（1684～1895）」（國立台灣師範大學歷史研究所修士論文、1980年）。——「清代台灣社會上升流動的二個個案」（『台灣風物』第30卷第2期、1980年6月）。

曹永和總纂、曹永和・吳密察編『日據前期台灣北部施政紀實經濟篇・軍事篇』（台北市文獻委員會、1986年）。

村永史朗「台灣日治時期的民事爭訟調停」（國立台灣大學法律學研究所修士論文、1999年）。

陳國川「日治時代雲林官有原野的土地開發」（『師大地理研究報告』第33期、2000年）。

陳漢光『台灣抗日史』（守堅藏書室、1948年）。

陳鴻圖『台灣水利史』（五南圖書出版、2009年）。

陳家豪『近代台灣人資本與企業經營——以交通業為探討中心』（政大出版社、2018年）。

陳捷先「道光壬寅台灣縣民抗糧案考」（『國立台灣大學歷史學系學報』第3期、1976年5月）。

陳麗華『族群與國家——六堆客家認同的形成（1683～1973）』（國立台灣大學出版中心、2015年）。——「城鄉關係與客家族群形塑——清代至日治時期的台灣六堆」（黃永豪・蔡志祥・謝曉輝主編『邊陲社會與國家建構』稻鄉出版社、2017年）。

陳其南『台灣的傳統中國』（允晨文化、1987年）。——『家族與社會——台灣和中國社會研究的基礎理念』（聯經出版、1990年）。

陳秋坤『清代台灣土著地權——官僚・漢佃與岸裡社人的土地變遷1700～1895』（中央研究院近代史研究所、1994年〔第三版：2009年〕）。——「清代塔樓社人社餉負擔與產權變遷（1710～1890）」（『台灣史研究』第9卷第2期、2002年）。——「清代地權分配與客家產權——以屏東平原為例、1700～1900」（『歷史人類學刊』第2卷第2期、2004年12月）。——「帝國邊區的客庄聚落——以屏東平原為中心」（『台灣史研究』第16卷第1期、2009年）。

陳素雲『乙未割台前後林維朝之國族認同與生命抉擇』（文史哲出版、2008年）。

陳偉智『伊能嘉矩——台灣歷史民族誌的展開』（國立台灣大學出版中心、2014年）。

陳文松『殖民統治與「青年」——台灣總督府的「青年」教化政策』（國立台灣大學出版中心、2015年）。

陳秀卿・洪麗完「府城邊區熟番哆囉嘓社會考察——以19世紀改信基督教活動為中心」（國立成功大學歷史系編『海洋古都——府城文明之形塑學術論文集』稻鄉出版社、2012年）。

陳怡宏「忠誠和反逆之間——1895～1901年間台北・宜蘭地區「土匪」集團研究」（國立台灣大學歷史學研究所修士論文、2001年）。

陳玉堂編著『中國近現代人物名號大辭典』（全編增訂本：浙江古籍出版社、2005年）。

陳正祥『台灣地誌』（全3卷、敷明產業地理研究所、1959～1961年）。——『台灣地名辭典』（南天書局、1993年）。——『台灣的人口』（南天書局、1997年）。

陳志豪「日治時期台灣的土地調查與「殖民知識」的形成——從咸菜硼（新竹關西）的區域個案談起」（『兩岸發展史研究』第2期、2006年12月）。——「近代台灣的土地改革與熟番——以銅鑼圈蕭東盛家族為例」（中央研究院台灣史研究所主催「2007年沿山研究群工作坊」2007年9月23日）。——「日治時期的交通建設與地方社會——以北埔地區的輕便軌道為例」（吳學明主編『地方菁英與地方社會——姜阿新與北埔』新竹縣文化局、2008年4月）。——『機會之庄——十九・二十世紀之際新竹關西地區之歷史變遷』（新竹縣政府出版局、2010年）。——「晚清「開山撫番」下的山區開發與地方社會——以竹塹地區的「金廣成」墾號為例」（『台灣學研究』第10期、2010年12月）。——『清代北台灣的移墾與「邊區」社會（1790～1895）』（南天書局、2019年）。

陳哲三『古文書與台灣史研究——陳哲三教授榮退論文集』（文史哲出版社、2008年）。

仇德哉『台灣廟神大全』（仇德哉、1985年）。

戴寶村『清季淡水開港之研究』（國立台灣師範大學歷史研究所、1984年）。——『陳中和家族史——從糖業貿易到政經世界』（玉山社、2008年）。——『海洋台灣歷史論集』（吳三連台灣史料基金會、2018年）。

- 策劃、潘繼道·蔡承豪·李進億·蔡蕙頻·陳慧先撰文『「小的」與 1895』(玉山社、2015 年)。
- 戴炎輝『清代台灣之鄉治』(聯經出版、1979 年)。
- 「悼念民俗學家莊松林先生特輯」(『台灣風物』第 25 卷第 2 期、1975 年 6 月)。
- 范金民「清代書吏頂充及頂首銀之探討」(『歷史研究』2018 年第 2 期、2018 年)。
- 方豪「台南之「郊」」(『大陸雜誌』第 44 卷第 4 期、1972 年)。
- 郭素秋·華阿財·吳美珍·谷斌祥·賴志誠『恆春半島文史研究——恆春—卑南古道調查研究成果報告』(墾丁國家公園管理處委託、2011 年)。
- 漢人編著『台灣革命史』(泰東圖書局、1926 年)。
- 何文平『變亂中的地方權勢——清末民初廣東的盜匪問題與社會秩序』(廣西師範大學出版社、2011 年)。
- 洪麗完「清代楠仔仙溪·荖濃溪中游之生·熟番族群關係(1760~1888)——以『撫番組』為中心」(『台灣史研究』第 14 卷第 3 期、2007 年 9 月)。
- 「婚姻網絡與族群·地域關係之考察——以日治時期大武壠派社裔為例」(戴文鋒主編『南瀛歷史、社會與文化 2』台南縣政府·南瀛國際人文科學研究中心、2010 年)。
- 「嘉南平原沿山地區之族群關係(1700~1900)」(『台灣史研究』第 18 卷第 1 期、2011 年 3 月)。
- 「從「阿里山番租」看清代沿山邊區族群互動關係」(謝仕淵·陳靜寬編『行腳西拉雅』國立台灣歷史博物館、2011 年)。
- 「族群互動與遷徙·擴散——以清代哆囉嘓社人遷徙白水溪流域為中心」(『台灣史研究』第 18 卷第 4 期、2011 年 12 月)。
- 「嘉南平原沿山熟番移住社會之形成暨其社會生活考察(1760~1945)——以大武壠派社為例」(『歷史人類學學刊』第 10 卷第 1 期、2012 年 4 月)。
- 「族群與聚落——清代台灣邊區漢人移墾聚落「後大埔」形成年代及祖籍別商榷」(中國社會科學院台灣史研究中心主編『紀念康熙統一台灣 330 周年國際學術討論會論文集』九州出版社、2015 年)。
- 陳秀卿「戰前台灣沿山邊區社會生活之考察——以六重溪庄熟番信仰為例」(中國社會科學院台灣史研究中心主編『台灣光復六十五周年暨抗戰史實學術研討會論文集』九州出版社、2012 年)。
- 洪秋芬「日據初期台灣的保甲制度(1895—1903)」(『中央研究院近代史研究集刊』第 21 期、1992 年)。
- 「日治初期葫蘆墩區保甲實施的情形及保正角色的探討(1895—1909)」(『中央研究院近代史研究所集刊』第 34 期、2000 年)。
- 「日治時期殖民政府和地方宗教信仰中心關係之探討——豐原慈濟宮的個案研究」(『思與言』第 42 卷第 2 期、2004 年)。
- 洪敏麟編著『台南市市區史蹟調查報告書』(台灣省文獻委員會、1979 年)。
- 洪郁如「日本統治初期士紳階層女性觀之轉變」(若林正丈·吳密察主編『跨界的台灣史研究——與東亞史的交錯』播種者出版、2004 年)。
- 黃丞儀「台灣近代行政法之生成——以「替現」與「揭露」的書寫策略為核心、1885~1901」(國立台灣大學法律研究所修士論文、2002 年)。
- 黃富三『霧峰林家的興起』(自立晚報出版、1987 年)。
- 「日本領台與霧峰林家之肆應——以林朝棟為中心」(國立台灣大學歷史學系編『日據時期台灣史國際學術研討會論文集』國立台灣大學歷史學系、1992 年)。
- 『霧峰林家的中控』(自立晚報出版、1992 年)。
- 「板橋林本源家與清代北台山區的發展」(『台灣史研究』第 2 卷第 1 期、1995 年 6 月)。
- 「從劉銘傳開山撫番政策看清廷·地方官·士紳之互動」(中華民國史專題討論會秘書處『國史上的中央與地方的關係——中華民國史專題第五屆討論會論文集』國史館、2000 年)。
- 「清季台灣外患·新政與霧峰林家——林家之際遇與紳權性格之轉變」(『故宮學術季刊』第 19 卷第 1 期、2001 年)。
- 「清季台灣之外來衝擊與官紳關係——以板橋林家之捐獻為例」(『台灣文獻』第 62 卷第 4 期、2011 年)。
- 「林朝棟與清季台灣樟腦業之復興」(『台灣史研究』第 23 卷第 2 期、2016 年 6 月)。
- 等主編『台灣史檔案·文書目錄』(全 13 冊、國立台灣大學、1997 年)。

- 黃嘉謨『甲午戰前之台灣煤務』（中央研究院近代史研究所、1961年）。
- 『美國與台灣——1784至1895』（中央研究院近代史研究所、1966年）。
- 黃立惠「清季台灣吏役之研究」（國立台灣師範大學歷史研究所修士論文、1999年）。
- 黃美娥『重層現代性鏡像——日治時代台灣傳統文人的文化視域與文學想像』（麥田出版、2014年）。
- 黃榮洛『渡台悲歌——台灣的開拓與抗爭史話』（台原出版社、1989年）。
- 黃紹恆『台灣經濟史中的台灣總督府——施政權限・經濟學與史料』（遠流出版、2010年）。
- 『砂糖之島——日治初期的台灣糖業史1895～1911』（交通大學出版社、2019年）。
- 黃秀政『台灣割讓與乙未抗日運動』（台灣商務印書館、1992年）。
- 黃驗・黃裕元撰文、黃清琦地圖繪製『台灣歷史地圖』（增訂版：國立台灣歷史博物館・遠流出版、2018年）。
- 柯志明『番頭家——清代台灣族群政治與熟番地權』（中央研究院社會學研究所、2001年）。
- 『米糖相克——日本殖民主義下台灣的發展與從屬』（群學出版、2006年）。
- 「視而不見——地稅改革下的岸裡社番小租」（『台灣史研究』第15卷第1期、2008年）。
- 「番小租的形成與演變——岸裡新社地域社番口糧田的租佃安排」（『台灣史研究』第15卷第3期、2008年）。
- 「熟番地權的「消滅」——岸裡社平埔族大小租業的流失與結束」（『台灣史研究』第16卷第1期、2009年）。
- 「岸裡社的私有化與階層化——賦役負擔與平埔族地域社會內部政經體制的形成和轉變」（詹素娟主編『族群・歷史與地域社會——施添福教授榮退論文集』中央研究院台灣史研究所、2011年）。
- 藍奕青『帝國之守——日治時期台灣的郡制與地方統治』（國史館、2012年）。
- 李崇儋「日本時代台灣警察制度之研究」（國立台灣大學法律研究所修士論文、1996年）。
- 李國祁「清季台灣的政治近代化——開山撫番與建省（1875～1894）」（『中華文化復興月刊』第8卷第12期、1975年12月）。
- 『中國現代化的區域研究——閩浙台地區1860～1916』（中央研究院近代史研究所、1982年）。
- 李季樺「空間與社會——台日「地域社會論」的比較」（中央研究院台灣史研究所主催「族群・歷史與地域社會」學術研討會、中央研究院人文社會科學館、2007年12月20～21日）。
- 「台灣契約文書的研究動向」（大島立子編『前近代中国の法と社会——成果と課題』東洋文庫、2009年）。
- 李進億『水利秩序之形成與挑戰——以後村圳灌溉區為中心之考察（1763～1970）』（國史館、2015年）。
- 李鎧揚『日治時期台灣的教育財政——以初等教育費為探討中心』（國史館、2012年）。
- 「北台士紳陳秋菊及其事業經營（1895～1922）」（『歷史台灣』第14期、2017年1月）。
- 李理『日據台灣時期警察制度研究』（海峽學術出版社、2007年）。
- 李力庸『米穀流通與台灣社會（1895～1945）』（稻鄉出版社、2009年）。
- 李佩蓁「依附抑合作？——清末台灣南部口岸買辦商人的雙重角色（1860～1895）」（『台灣史研究』第22卷第2期、2013年6月）。
- 「商民樂從？——台灣釐金制度與官商利益結構（1857～1886）」（『台灣史研究』第25卷第2期、2018年6月）。
- 「制度變遷與商業利益——以中英商人在台灣樟腦貿易的行動為中心」（『新史學』第30卷第1期、2019年3月）。
- 李世偉『日據時代台灣儒教結社與活動』（文津出版社、1999年）。
- 李維修『從素封家到社會菁英——日治時期新竹地區士紳的社會角色變遷1895～1937』（新竹市文化局、2015年）。
- 李文良「日治時期台灣林野整理事業之研究——以桃園大溪地區為中心」（國立台灣大學歷史學研究所修士論文、1996年）。
- 『中心與周緣——台北盆地東南緣淺山地區的社會經濟變遷』（台北縣立文化中心、1999年）。
- 「日治時期台灣總督府的林野支配與所有權——以「緣故關係」為中心」（『台灣史研究』第5卷第1期、2000年4月）。
- 『帝國的山林——日治時期台灣山林政策史研究』（國立台灣大學歷史學研究所博士論文、2001年）。
- 「晚清台灣的地方政府與社會——廣泰成墾號事件的觀察」（曹永和先生八十壽慶論文集編輯委員會編『曹永和先生八十壽慶論文集』樂學書局、2001年）。
- 「街庄行政與鄉土意識——南台灣里港庄的個案研究（1895～1945）」（陳秋坤總編『里港鄉志』里港鄉公所、

- 2003 年)。
- 「晚清台灣清賦事業的再考察——「減四留六」的決策過程與意義」(『漢學研究』第 24 卷第 1 期、2006 年 6 月)。
- 「十九世紀晚期劉銘傳裁隘事業的考察——以北台灣新竹縣為中心」(『台灣史研究』第 13 卷第 2 期、2006 年 12 月)。
- 「一八九五年台灣政權轉換之際的大崙崁社會」(『歷史台灣』第 10 期、2015 年)。
- 李筱峯「從社會運動者到民俗學家——莊松林的一生」(『台灣文藝』第 106 期、1987 年 7 月)。
- 李幸真「日治初期台灣警政的創建與警察的召訓(1898~1906)」(國立台灣大學文學院歷史學研究所碩士論文、2009 年)。
- 李毓嵐『世變與時變——日治時期台灣傳統文人的肆應』(國立台灣師範大學歷史學系、2010 年)。
- 連雅堂『台灣通史』(上·中·下、台灣通史社、1920 年)。
- 梁華璜『光緒乙未台灣的交割與保台』(庚子出版社、1974 年)。
- 廖風德「清代台灣農村埤圳制度——清代台灣農村制度之一」(『國立政治大學歷史學報』第 3 期、1985 年)。
- 「清代台灣的吏治與營規」(『國立政治大學歷史學報』第 7 期、1990 年)。
- 『台灣史探索』(台灣學生書局、1996 年)。
- 林滿紅『茶·糖·樟腦業與晚清台灣』(台灣銀行、1978 年)[同『茶·糖·樟腦業與台灣之社會經濟變遷(1860~1895)』聯經出版、1997 年]。
- 『四百年來的兩岸分合——一個經貿史的回顧』(自立晚報、1994 年)。
- 林聖欽『日本時代台灣糖業的不均衡發展——以鹽水港地區的農家生計差距擴大為例』(國立台灣師範大學地理學系博士論文、2001 年)。
- 林偉盛『羅漢腳——清代台灣社會與分類械鬥』(自立晚報、1993 年)。
- 林文凱『土地契約秩序與治理——十九世紀台灣淡新地區土地開墾與土地訴訟的歷史制度分析』(國立台灣大學社會學研究所博士論文、2006 年)。
- 「再論晚清台灣開港後的米穀輸出問題」(『新史學』第 22 卷第 2 期、2011 年)。
- 「再論清代台灣開港以前的米穀輸出問題」(林玉茹編『比較視野下的台灣商業傳統』中央研究院台灣史研究所、2012 年)。
- 「晚清台灣開山撫番事業新探——兼論十九世紀台灣史的延續與轉型」(『漢學研究』第 32 卷第 2 期、2014 年)。
- 「日治初期基隆土地糾紛事件的法律社會史分析(1898~1905)」(『成大歷史學報』第 48 期、2015 年)。
- 「清代台灣與近代早期英格蘭的土地制度與經濟發展——一個統治理性的比較制度分析」(『思與言——人文與社會科學期刊』第 55 卷第 1 期、2017 年 3 月)。
- 「台灣「中央財政」體制的轉型——日治初期(1898~1905)後藤新平總督府財政改革之歷史意義」(『中央大學人文學報』第 63 期、2017 年 4 月)。
- 「台灣近代統治理性的形構——晚清劉銘傳與日治初期後藤新平土地改革的比較」(『台灣史研究』第 24 卷第 4 期、2017 年 12 月)。
- 「晚清台灣的財政——劉銘傳財政改革的歷史制度分析」(『台大歷史學報』第 61 期、2018 年)。
- 「清帝國在台灣的前期現代統治理性——對東·西方現代性演變的再思考」(湯志傑編『交互比較視野下的現代性——從台灣出發的反省』國立台灣大學出版中心、2019 年)。
- 「清代到日治時代台灣統治理性的演變——以生命刑為中心的地方法律社會史考察」(『中央研究院歷史語言研究所集刊』第 90 本第 2 分、2019 年)。
- 林欣宜「樟腦產業下的地方社會與國家——以南庄地區為例」(國立台灣大學歷史學研究所碩士論文、1999 年)。
- 「二十世紀中期以前新竹市東南金山面地區的土地利用與社會發展」(『竹塹文獻』第 51 期、2012 年)。
- 「十九世紀下半葉竹塹商人面臨的困境」(『台灣史研究』第 20 卷第 1 期、2013 年 3 月)。
- 「財產是十四大庄公共——日本統治前期新竹枋寮義民廟廟產經理制度化的形成」(『全球客家研究』第 2 期、2014 年)。
- 林玉茹『清代台灣港口的空間結構』(知書房、1996 年)。

- 『清代竹塹地區的在地商人及其活動網絡』（聯經出版、2000 年）。
- 『殖民地的邊區——東台灣的政治經濟發展』（遠流出版、2007 年）。
- 林正慧『六堆客家與清代屏東平原』（遠流出版社、2008 年）。
- 『台灣客家的形塑歷程——清代到戰後的追索』（國立台灣大學出版中心、2015 年）。
- 林政佑『日治時期台灣監獄制度與實踐』（國史館、2014 年）。
- 劉傳來・劉傳明總編輯、劉傳能撰著『劉闊公傳』（1981 年）。
- 劉妮玲『清代台灣民變研究』（國立台灣師範大學歷史研究所、1983 年）。
- 劉錚雲主編『中央研究院歷史語言研究所藏內閣大庫檔案台灣史料彙編目錄』（中央研究院歷史語言研究所、2012 年）。
- 栗原純『日本帝國主義與鴉片——台灣總督府的鴉片政策』（國立台灣大學出版中心、2017 年）。
- 羅士傑「清代台灣的地方菁英與地方社會——以同治年間的戴潮春事件為討論中心」（國立清華大學歷史學研究所 修士論文、2000 年）。
- 繆全吉『清代幕府人事制度』（中國人事行政月刊社、1971 年）。
- 彭子明『台灣近世史』（福州鳴社、1929 年）。
- 丘雲柳「牛墟——古老的牛市趕集」（『台灣月刊』第 28 期、1985 年 4 月）。
- 邱澎生「會館・公所與郊之比較——由商人公產檢視清代中國市場制度的多樣性」（林玉茹主編『比較視野下的台灣商業傳統』中央研究院台灣史研究所、2012 年）。
- 邱玫慧「清代閩台地區保甲制度之研究（1708～1895）」（國立台灣師範大學歷史學系修士論文、2007 年）。
- 邱奕松「鄉賢錄」（『嘉義市文獻』第 1 期、1983 年）。
- 「鄉賢錄（續）」（『嘉義市文獻』第 3 期、1987 年）。
- 若林正文・吳密察主編『跨界的台灣史研究——與東亞史的交錯』（播種者出版、2004 年）。
- 『台灣重層近代化論文集』（播種者出版、2000 年）。
- 施添福『清代在台漢人的祖籍分布和原鄉生活方式』（國立台灣師範大學地理學系、1987 年）。
- 「清代台灣市街的分化與成長——行政・軍事和規模的分析（上・中）」（『台灣風物』第 39 卷第 2 期、第 40 卷第 1 期、1989～1990 年）。
- 「『台灣堡圖』日本治台的基本圖」（台灣總督府臨時台灣土地調查局調製『台灣堡圖』遠流出版、1996 年）。
- 「日治時代台灣地域社會的空間結構及其發展機制——以民雄地方為例」（『台灣史研究』第 8 卷第 1 期、2001 年）。
- 『清代台灣的地域社會——竹塹地區的歷史地理研究』（新竹縣文化局、2001 年）。
- 「國家・里保與地域社會——以清代台灣北部的官治與鄉治為中心」（中央研究院台灣史研究所主催「族群・歷史與地域社會」學術研討會」會議論文、2007 年 12 月 20・21 日）。
- 總編纂、陳國川編『台南縣地名辭書卷七 台南縣』（上・下、國史館台灣文獻館、2002 年）。
- 總編纂、陳國川・翁國盈編『台南縣地名辭書卷八 嘉義縣』（上・下、國史館台灣文獻館・嘉義縣政府、2002 年）。
- 宋衛華「鄉土情懷話「牛墟」」（『照相機』2017 年第 4 期、2017 年 4 月）。
- 藤井志津枝『日治時期台灣總督府理蕃政策』（文英堂出版、1996 年）。
- 涂順從『南瀛抗日誌』（台南縣文化局、2000 年）。
- 王世慶「清末建省前後台灣軍政首長與地方士紳之關係」（『幼獅月刊』第 44 卷第 5 期、1976 年 1 月）。
- 『清代台灣社會經濟』（聯經出版、1994 年）。
- 王泰升『台灣日治時期的法律改革』（聯經出版、1999 年）。
- 『台灣法律史概論』（第 3 版：元照出版社、2009 年）。
- 『去法院相告——日治台灣司法正義觀的轉型』（修訂版：國立台灣大學出版中心、2017 年）。
- 王興安「殖民地治理與地方菁英——以新竹・苗栗地區為中心（1895 年～1935 年）」（國立台灣大學歷史學研究所 修士論文、1999 年）。
- 王學新『日治時期台灣保甲制度之研究』（國史館台灣文獻館、2009 年）。
- 編著『日治時期北部抗日史料選編』（全 3 冊、國史館台灣文獻館、2016 年）。

- 王御風『高雄社會領導階層的變遷（1920～1960）』（玉山社、2013年）。
- 韋慶遠『明代黃冊制度』（中華書局、1961年）。
- 溫振華「清代台灣漢人的企業精神」（『台灣師範大學歷史學報』第9期、1981年6月〔張炎憲・李筱峯・戴寶村主編『台灣史論文精選（上）』玉山社、1996年〕）。
- 聞鈞天『中國保甲制度』（商務印書館、1935年）。
- 翁佳音『台灣漢人武裝抗日史研究（1895～1902）』（國立台灣大學出版委員會、1986年〔『台灣漢人武裝抗日史研究』稻鄉出版、2007年〕）。
- 吳俊瑩『台灣代書的歷史考察』（國立政治大學歷史學系、2010年）。
- 吳密察『台灣近代史研究』（稻鄉出版社、1991年）。
- 「台灣殖民地統治政策與外國顧問 W. Kirkwood」（國立台灣大學歷史學系編『日據時期台灣史國際學術研討會論文集』國立台灣大學歷史學系、1992年）。
- 「一九〇五年廈門林維源銀行設立之計畫及相關問題」（淡江大學主催「中國與亞洲國家關係史學術研討會」、1993年）。
- 「「歷史」的出現」（黃富三・古偉瀛・蔡采秀主編『台灣史研究一百年——回顧與研究』中央研究院台灣史研究所籌備處、1998年）。
- 「「歷史」的出現——台灣史學史素描」（『當代』第224期、2006年）。
- 「明治國家體制與台灣——六三法之政治的展開」（『台大歷史學報』第37期、2006年）。
- 「台灣總督府「土地調查事業」（1895-1905）的展開及其意義」（『師大台灣史學報』第10期、2017年12月）。
- 吳文星『日據時期台灣社會領導階層之研究』（正中書局、1992年〔『日治時期台灣的社會領導階層』五南圖書出版、2008年〕）。
- 「日據時期高雄地區社會領導階層之分析」（黃俊傑編『高雄歷史文化論集第1輯』陳中和翁慈善基金會、1994年）。
- 吳學明『從依賴到自立——終戰前台灣南部基督長老教會研究』（人光出版社、2003年）。
- ・黃卓權編著『古文書的解讀與研究』（上・下、新竹縣政府文化局、2012年）。
- 蕭明治『殖民樁腳——日治時期台灣煙酒專賣經銷商』（博揚文化、2014年）。
- 謝國興訪問、蔡淑瑄・陳南之紀錄『吳修齊先生訪問紀錄』（中央研究院近代史研究所、1992年）。
- 許佩賢『殖民地台灣的近代學校』（遠流出版、2005年）。
- 許雪姬「二劉之爭與晚清台灣政局」（『中央研究院近代史研究所集刊』第14期、1985年）。
- 『清代台灣的綠營』（中央研究院近代史研究所、1987年）。
- 『龍井林家的歷史』（中央研究院近代史研究所、1990年）。
- 『北京的辮子——清代台灣的官僚體系』（自立晚報、1993年）。
- 『滿大人最後的二十年——洋務運動與建省』（自立晚報、1993年）。
- 薛雅惠「日治時期台灣牛墟的分布與規模」（『白沙歷史地理學報』第4期、2007年）。
- 顏尚文・潘是輝編著『嘉義賴家發展史』（台灣省文獻委員會、2000年）。
- 楊永彬「台灣紳商與早期日本殖民政權的關係——1895年～1905年」（國立台灣大學歷史學研究所修士論文、1996年）。
- 「日本領台初期日台官紳詩文唱和」（若林正文・吳密察主編『台灣重層近代化論文集』播種者出版、2000年）。
- 葉淑貞『台灣日治時期的租佃制度』（遠流出版、2013年）。
- 『台灣農家經濟史之重新詮釋』（國立台灣大學出版中心、2014年）。
- 葉振輝『清季台灣開埠之研究』（葉振輝、1985年）。
- 尤淑君「1894～1949年大陸民眾對台灣認識的變化——以《申報》對台灣的報導為例」（『史學月刊』2016年第5期、2016年5月）。
- 曾迺碩『乙未抗日保台運動』（台灣史蹟研究會、出版年不詳）。
- 曾旺萊編著『蕭壠走番仔反——台灣抗日秘辛』（台南縣文化局、1998年）。
- 曾文亮『日治時期台灣人家族法的殖民近代化與日本化——全新的舊慣』（國立台灣大學法律學研究所博士論文、

- 2008 年)。
- 「日治時期台灣土地調查事業中的「家產」問題及其解決」(林玉茹主編『比較視野下的台灣商業傳統』中央研究院台灣史研究所、2012 年)。
- 「日治初期台灣土地關係的整理及其影響 1895~1905」(『成大歷史學報』第 49 期、2015 年)。
- 詹德隆「清代台灣各級衙門之書吏與差役」(『史聯雜誌』第 16 期、1990 年)。
- 詹素娟「日治初期台灣總督府的「熟蕃」政策——以宜蘭平埔族為例」(『台灣史研究』第 11 卷第 1 期、2004 年)。
- 「從差異到混同——日治初期「帝國臣民」架構下的熟番社會」(洪麗完編『國家與原住民——亞太地區族群歷史研究』中央研究院台灣史研究所、2009 年)。
- 『典藏台灣史 2 台灣原住民史』(玉山社、2019 年)。
- 張安琪『台灣寺廟土地財產的近代化 (1895~1910)』(國立政治大學台灣史研究所博士論文、2016 年)。
- 張家綸『菁英如何改變社會——近代草屯之形成與人際網絡之轉變 (1724~1945)』(稻鄉出版社、2017 年)。
- 張隆志「殖民地現代性分析與台灣近代史研究——本土史學史與方法論芻議」(若林正丈·吳密察主編『跨界的台灣史研究——與東亞史的交錯』播種者文化、2004 年)。
- 「後殖民觀點與台灣史研究——關於台灣本土史學的方法論反思」(柳書琴·邱貴芬主編『後殖民的東亞在地化思考——台灣文學場域』國家台灣文學館籌備處、2006 年)。
- 「從「舊慣」到「民俗」——日本近代知識生產與殖民地台灣的文化政治」(『台灣文學研究集刊』第 2 期、2006 年 11 月)。
- 張勝彥『清代台灣廳縣制度之研究』(華世出版社、1993 年)。
- 張世賢『晚清治台政策 1874~1895』(東吳大學中國學術著作獎助委員會、1978 年 [海峽學術出版社、2009 年])。
- 張守真『劉永福與台灣』(高雄市文獻委員會、2003 年)。
- 張素玢『濁水溪三百年——歷史·社會·環境』(衛城出版、2014 年)。
- 張莢「清道光年間郭光侯京控案」(『台灣文獻』第 19 卷 4 期、1968 年 12 月)。
- 「郭洸侯京控案中的許東燦暨該案各人的懲處」(『台灣文獻』第 20 卷 2 期、1969 年 6 月)。
- 張怡敏『日治時代台灣地主資本累積之研究——以霧峰林澄堂系為個案』(國立政治大學地政學系博士論文、2001 年)。
- 趙世瑜『吏與中國傳統社會』(浙江人民出版社、1994 年)。
- 趙文榮文、黃耿國攝影「圖說善化牛墟」(『台灣文獻別冊』第 5 期、2003 年 6 月)。
- 趙祐志『日據時期台灣商工會的發展 (1895~1937)』(稻鄉出版社、1998 年)。
- 鄭天凱「政權交替下的地方社會——雲林事件 (1896) 的探討」(國立台灣大學歷史學研究所修士論文、1995 年)。
- 鄭威聖『鄉賢與土豪——清代台灣街庄總理與地方社會』(花木蘭文化出版社、2014 年)。
- 鄭振滿『明清福建家族組織與社會變遷』(湖南教育出版社、1992 年 [中國人民大學出版社、2009 年])。
- 『鄉族與國家——多元視野中的閩台傳統社會』(生活·讀書·新知·三聯書店、2009 年)。
- 鄭政誠『台灣大調查——臨時台灣舊慣調查會之研究』(博揚文化、2005 年)。
- 鍾淑敏「日據初期台灣總督府統治權的確立——1895 年~1906 年」(國立台灣大學歷史學研究所修士論文、1889 年)。
- 周婉窈『少年台灣史——寫給島嶼的新時代和永懷少年心的國人』(玉山社、2014 年)。
- 朱鋒(莊松林)「導引日軍無事進入台南城的陳修五的履歷書」(『台灣風物』第 22 卷第 4 期、1971 年 12 月)。
- 莊吉發『清代台灣會黨史研究』(南天書局、1999 年)。
- 莊嘉農『憤怒的台灣』(智源書局、1949 年)。
- 卓克華『清代台灣的商戰集團』(台原出版社、1990 年)。
- 『清代台灣行郊研究』(揚智文化、2007 年)。

英文

Allee, Mark A., *Law and Local Society in Late Imperial China: Northern Taiwan in the Nineteenth Century* (Stanford: Stanford University Press, 1994).

Alsford, Niki J.P., *Transition to Modernity in Taiwan: The Spirit of 1895 and the Cession of Formosa to*

- Japan* (London: Routledge, 2018).
- Chang Lung-chih (張隆志), *From Island Frontier to Imperial Colony: Qing and Japanese Sovereignty Debates and Territorial Projects in Taiwan, 1874-1906* (Ph.D. Dissertation, Harvard University, 2003).
- Chen, Ching-chih (陳清池), "The Japanese Adaption of the Pao-Chia System in Taiwan, 1895-1945," *Journal of Asian Studies*, vol. 34, no. 2 (1975).
- Ch'ü, T'ung-tsu (瞿同祖), *Local Government in China under the Ch'ing* (Cambridge Mass.: Harvard University Press, 1962).
- Cheung, Sui-wai (張瑞威) ed., *Colonial Administration and Land Reform in East Asia* (London & N.Y.: Routledge, 2017).
- DeGlopper, Donald R., *Lukang: Commerce and Community in a Chinese City* (Albany: State University of New York Press, 1995).
- Duara, Prasenjit, *Culture, Power, and the State: Rural North China, 1900-1942* (Stanford, Calif.: Stanford University Press, 1988).
- Esherick, Joseph W. and Mary Backus Rankin eds., *Chinese Local Elites and Patterns of Dominance* (Berkeley, L.A. & London: University of California Press, 1990).
- Faure, David, *Emperor and Ancestor: State and Lineage in South China* (Stanford, Calif.: Stanford University Press, 2007).
- Hsu, Pei-hsien (許佩賢), "Institutionalizing Public-service Land Holding in Early Japanese Colonial Taiwan: The Transformation of School Land," Cheung, Sui-wai ed., *Colonial Administration and Land Reform in East Asia* (London & N.Y.: Routledge, 2017).
- Ka, Chih-ming (柯志明), *Japanese Colonialism In Taiwan: Land Tenure, Development, And Dependency, 1895-1945* (Boulder, Colo.: Westview Press, 1995).
- Katz, Paul R., *When Valleys Turned Blood Red: The Ta-pa-ni Incident in Colonial Taiwan* (Hawaii: University of Hawaii Press, 2005).
- Kuhn, Philip A., *Rebellion and Its Enemies in Late Imperial China: Militarization and Social Structure, 1796-1864* (Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1980).
- Lamley, Harry Jerome, *The Taiwan Literati and Early Japanese Rule, 1895-1915: A Study of Their Reactions to the Japanese Occupation and Subsequent Responses to Colonial Rule and Modernization* (PhD Dissertation, University of Washington, 1964).
- , "The 1895 Taiwan War of Resistance: Local Chinese Efforts against a Foreign Power," Leonard H. D. Gordon ed., *Taiwan Studies in Chinese Local History* (N.Y. & London: Columbia University Press, 1970).
- , "The Formation of Cities: Initiative and Motivation in Building Three Walled Cities in Taiwan," G. William Skinner ed., *The City in Late Imperial China* (Stanford, Calif.: Stanford University Press, 1977).
- Lin, Hsin-yi (林欣宜), *The Formation of Taiwan Society: The Case of the Zhuqian Area, 1723-1895* (Dissertation of University of Oxford, 2011).
- , "Temple Property Management in Colonial Taiwan: The Case of the Yimin Temple of Xinzhu Country," Cheung, Sui-wai ed., *Colonial Administration and Land Reform in East Asia* (London & N.Y.: Routledge, 2017).
- Lin, Wen-kai (林文凱), "Two Land Investigations in Modern Taiwan: What made the Japanese Survey Different from the Qing Dynasty's?," Cheung, Sui-wai ed., *Colonial Administration and Land Reform in East Asia* (London & N.Y.: Routledge, 2017).
- Liu, Lydia H. (劉禾), *Translingual Practice: Literature, National Culture, and Translated Modernity--China, 1900-1937* (Stanford, Calif.: Stanford University Press, 1995).
- Matsuzaki, Reo, *Statebuilding by Imposition: Resistance and Control in Colonial Taiwan and the Philippines* (Ithaca & London: Cornell University Press, 2019).

- Meskill, Johanna M., *A Chinese Pioneer Family: The Lins of Wu-Feng, Taiwan, 1729-1895* (Princeton, N.J.: Princeton University Press, 1979).
- Reed, Bradly W., *Talons and Teeth: Country Clerks and Runners in the Qing Dynasty* (California: Stanford University Press, 2000).
- Shepherd, John R., *Statecraft and Political Economy on the Taiwan Frontier, 1600-1800* (Stanford: Stanford University Press, 1993).
- Teng, Emma Jinhua, *Taiwan's Imagined Geography: Chinese Colonial Travel Writing and Pictures, 1683-1895* (Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 2004).
- Tavares, Antonio C, "The Japanese Colonial State and the Dissolution of the Late Imperial Frontier Economy in Taiwan, 1886-1906," *The Journal of Asian Studies*, vol. 64, no. 2, May 2005.
- , *Crystals From The Savage Forest: Imperialism And Capitalism In The Taiwan Camphor Industry, 1800-1945* (PhD Dissertation, Princeton University, 2004).
- Ts'ai, Hui-yu Caroline (蔡慧玉), *One Kind of Control: The 'Hoko' System in Taiwan under Japanese Rule, 1895-1945* (PhD Dissertation, Columbia University, 1990).
- , "The Hoko System in Taiwan, 1895-1945: Structure and Functions," (『文史學報』第23期, 1993).
- Tseng, Wen-liang (曾文亮), "Lineage Properties in Civil Law: Notes on Public Property for Sacrifice in Taiwan," Cheung, Sui-wai ed., *Colonial Administration and Land Reform in East Asia* (London & N. Y.: Routledge, 2017).
- Tsurumi, E. Patricia, *Japanese Colonial Education in Taiwan, 1895-1945* (Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1977).
- Wang, Di (王笛), *Violence and Order on the Chengdu Plain: The Story of a Secret Brotherhood in Rural China, 1939-1949* (Stanford, Calif.: Stanford University Press, 2018).
- Wu, Mi-cha (吳密察), "Launching the Land Revolution: Taiwan Land Survey in the Early Twenties Century," Cheung, Sui-wai ed., *Colonial Administration and Land Reform in East Asia* (London & N. Y.: Routledge, 2017).

論文の内容の要旨

論文題目 植民地台湾の形成
——清末・日本統治初期における国家・社会関係の転換——
氏 名 新田龍希

本論文は清末・日本統治初期における台湾の国家（在台統治機構）・社会関係の変遷過程を描くことを通して、1895年前後の歴史を接続し、日本による台湾植民地化の過程を再考することを目的とする。本論文は序論、結論を除いて4章及び補論から構成される。

第1章では嘉義新港の士紳である林維朝に即して、清末台湾における団練の活動や「公事」のあり方を検討するとともに、林が割譲をどのように経験したのか、そして植民地権力との出会いはいかなるものであったかを考察した。

まず団練について、局長は地域エリートの推薦を受けて、知県から直接任命されていた。平時の団練は冬季のみ設けるもので、もっぱら冬防のためのものであった。他方で冬季以外にも林維朝は地域で強盗などが発生すると、知県から犯人の偵査、問題の解決を求められた。これらも全て地域の「公事」であり、林は学業を理由に「公事」「局務」から逃れようとするも、知県の説得にあい、結局は学業を放棄するのであった。日清戦争下では平時以上に大規模に団練局が運営された。経費は基本的に地域エリートによる分担であったが、知県から官租を紹介され、官租収入を局費に充当できた。

次に、郷治については、団練とは直接関係なく、林は平時から腕っ節の強い者を「雇い人」「壮丁」として雇っており、強盗被害や抗租にあうと、彼らを率い、武装して現場に出向き、強盗と撃ち合うこともあり、また抗租をする者の息子を拿捕し、新港街の地保に預けるといった実力行使に出ている。清末台湾は軍事社会であり、紛争が発生した場合に武力で「解決」することもままあった。そして林は自身の雇い人を団練局の局丁にも任命した。自家の経営と公事は地続きであった。

そして台湾が日本に割譲され日本軍が上陸して南下すると、各地の緊張はピークに達した。いわゆ

る台湾民主国軍が大莆林から新港へと逃げ帰ってくると、新港の人びとは彼らを「反逆兵」とみなし、殺害しようとした。割譲は人びとの間に集団ヒステリーを引き起こさせたのであり、それを目の当たりにした林は内渡を決意した。しかし内渡後も台湾における糖廊経営に様々な問題が発生したこともあり帰郷する。その間にかつての局丁がモーゼル銃を提げて新港を歩いていたところ警察に逮捕連行され、その銃が林維朝のものだと証言したことで林の身に危険が及ぶ。しかし新港の70余りの商店が連署して請願書を提出し、林が実際に処罰を受けることはなかった。林は一命をとりとめたが身の危険を感じ再び内渡した。しかしその後母が亡くなったことなどもあり、最終的に1897年5月の国籍選択期限を過ぎた10月に新港に戻ることを決意した。

第2章は嘉義における郷土防衛戦を概覧したのち、嘉義市街に開かれた保良局を検討する。また総理から事務係、街庄長に至る制度の変遷と、参事について考察した。

乙未戦争下の嘉義においては十八堡が聯庄を組織したことが知られている。複数の地域エリートが連携しながら壮丁を率いて日本軍と戦ったが、最終的には敗北を喫する。その後嘉義市街で開かれたのが保良局である。嘉義市街のエリートが運営した組織であったが、日本軍からの苦力調達などの苛酷な要求や非礼、経費調達の困難などから廃止を申し出る。保良局廃止後1896年末には各堡に事務係が設置された。これはそれまでの総理から人的に連続するものであり、また嘉義市街においては4区の事務係が共同で公務所を設置したことで、実質的に保良局を継承するような組織となった。この公務所にせよ、事務係にせよ、彼らもやはり経費の不足に直面しており、そんな中で彼らが目をつけたのが牛墟から上がる収益であった。ここにおいて公務所、事務係、墟長の間で各地の牛墟の管理をめぐる紛争が勃発し、県庁には相手の非と自身の正当性を訴える大量の陳情書が届けられた。県庁はこれに対して「請負事業」であった牛墟経営を「公共」のものと捉え直し、牛墟からあがる収益を公学校経営などの「公共事業」に充当することを思いつき、実行に移された。

1897年に辨務署が設置されると、1898年にかけて参事及び街庄長が各地で任命された。参事はあくまで県ないし辨務署の諮問役で規則制定に際して意見を求められる程度の役割しか与えられなかった。街庄長は人的には総理、事務係から連続していたが、その業務や権限は縮小され、また従前の事務係と同様に経費不足に悩まされた。街庄長の事務費は初年度は国庫支辨であったが次年度以降廃止される。しかし廃止後の方針として、参事官（地方課長）杉村濬は街庄民の協議支辨を決定するが、法務課長大島久満次はこれに対して、当時の最下級行政機関は辨務署であり、行政機関ではない街庄の事務費を街庄毎に区別して賦課徴収するのは本末転倒であると批判する。結局乃木から児玉へと総督が交替する時期にあたっていたこともあり、街庄民の協議支辨で決定されるが、児玉総督就任後この方針は無かったことにされ、地方税規則を制定し、街庄長の役場費は地方税から支出することになった。しかし地方税中の街庄長役場費は予算が少なく、街庄長らは慢性的に経費不足に悩まされていた。そんな中、地方税を街庄長が代行徴収することとなり、そして更に法的根拠はないにも関わらず国税（地租）をも街庄長が代行徴収することになり、総督府は徴税費用として交付金を支給するようになった。すると今度は交付金を多く受領する街庄（区）に対しては役場費をカットないし受給しないという、交付金と役場費とがトレードオフの関係にされていった。

街庄長の就任状況については、基本的に多くが長年にわたり街庄長を担当し、街庄長が亡くなってもその息子が引き継ぐなど有力家が長く担当していた。総督府としても街庄長の人事にほとんど容喙できなかったと思われる。

第3章では割譲以前に州県衙門で働いていた胥吏に着目し、彼らの割譲後の動向を考察した。割譲以前、胥吏らは裁判や日常業務に関わる文書処理に携わるとともに、徴税業務を独占的に請け負っていた。割譲後、統治の引継を受けなかった総督府には、何よりもまず地租徴収体制を確立することが求められた。そこで総督府は彼らかつての胥吏を県庁に雇い入れた。彼らの一部は官話を話すこともできたので、通訳業務に従事したほか、徴税のための資料（実徴冊ほか各種簿冊）を提供し、その整理にも従事した。こうして総督府は最低限の徴税情報を得、徴税を実施するようになると、徴税の実務にはかつての衙役（糧差）が一部採用されたほかは胥吏らは関与することはできず、またその糧差も弊害が多いとして事務係へ徴税業務を委託するようになる。こうして総督府にとって胥吏はもはや必要な存在ではなくなっていった。

他方で、二重通訳状況において、官話話者は貴重な存在であり、その点において総督府は胥吏を含む官話話者を多く雇用したが、同時に統治開始早々に国語伝習所を設け、その後公学校を各地に設置していき、日本語を話せる若年者が輩出していく。こうして1910年代に入ることには官話話者は必要なくなっていく、日本語—福佬語の単通訳体制が形成されていった。

第4章では保甲制度の確立までの経緯を考察した。割譲以前各地で組織されていた聯庄を、割譲後乃木総督期になってその有用性を認め、規制をかけつつ公認することになった。そして1897年末には壮丁団と名称を変更し、その組織標準を定めたが、その時点で保甲制度の立案が始まっていた。しかし総督の交替があり保甲制度を制定しないまま乃木希典も杉村濤も離台すると、おそらくこの案を引き継いだ石塚英蔵が、そこに総督府の中央集権化を図る条項を加えつつ保甲条例の草案を作成する。この草案には保甲そのものに関する規程のみならず、街庄長制度を包括的に規定する条項も含まれていた。しかし同案は顧みられることなく、後藤新平が別に作成した案をもとに保甲条例は制定される。後藤が作成したものは連坐制を強調し、地方県庁に対する総督府の中央集権化を志向するものであった。しかし各県庁が細則を制定施行する中で、各地の現状に併せて様々な規定を盛り込んだため、各地の保甲編成方法はバラバラなものとなり、保や甲の規模も1保＝10甲＝100戸から大きく離れたものとなった。

1902年に「土匪」が鎮定されると、総督府はすぐに保甲制度の再編に着手する。総督府が求めたのは各地で保と県庁の間に設けられていた中間団体である保甲局を断固として廃止すること、保や甲の規模を縮小して1保＝10甲＝100戸になるべく近似させること、そして保甲を警察の最末端組織であると実質的に位置づけ、警察による保甲の監督体制を確立した上で、一般行政すなわち街庄長の業務を補助する体制を創出することであった。「土匪」時代に制定された非常時の制度を日常化し、標準化していくことで、稠密な地方統治のための組織にしていっただのである。

補論では割譲後に地方県庁で雇用された台湾人のうち警吏（巡査補）に着目し、彼らの行動様式を探るとともに、地方県庁の警察組織が実施していた「探聞」の報告記録に依拠して、当時の台湾社会

においてどのような問題が発生していたのかを考察した。彼ら警吏は官憲と地域住民の間の仲介者であったこともあり、警吏が金銭を詐取するといった問題が発生することがあった。しかし一方で彼らは社会の不満や不正を当局に訴えるなど、社会の代弁者としての役割も果たしていた。また警吏は常に現場の最前線に立たざるを得ない職であることから、「土匪」は彼らを憎んでおり、警吏を誘拐したり、警吏を解雇することを求める投書が寄せられることもあった。

地方県庁が探聞により収集した情報は様々あったが、「土匪」に関するものが圧倒的であったほか、地方税導入時には人びとが大きな不満を抱いていたこと、そして「土匪」がそれを好機として攻勢に出ようとしていたことなどが報告された。また官吏の不正に関する探聞も多く報告された。県庁が憂慮し、日本人巡査が慨嘆するほどに官吏による強姦や暴行、斬殺拷問、村落焼夷、徴発などが頻発していたのである。

結論では、本論の議論を整理し、日本統治初期に成立した統治構造を示すとともに、社会経済構造の転換と相俟って、〈植民地台湾〉が形成されたことを示した。